

独立行政法人日本芸術文化振興会の平成24年度に係る業務の実績に関する評価

全体評価

＜参考＞ 業務の質の向上:A 業務運営の効率化:A 財務内容の改善:A

①評価結果の総括

- ・平成24年度の業務は、全体として概ね計画どおりに実施されている。
- ・文化芸術活動に対する援助については、新たに演劇部門、伝統芸能・大衆芸能部門にプログラムディレクター、プログラムオフィサーが配置されたことは評価できる。
- ・公演事業では、入場者数が未達の分野も散見されるが、伝統芸能分野、現代舞台芸術分野ともに、全体としては入場者数、入場率で目標を達成した。
- ・青少年等を対象とした取組は、入場率が極めて高く、評価できる。
- ・伝統芸能の伝承者の養成は意義のある事業であるが、国費を投入しているナショナルセンターとしては、養成すべき分野について不断の見直しが必要である。
- ・業務の効率化については、一般管理費で、基準額である平成19年度予算額から、15%の目標に対し平成24年度で30%削減を達成したことは評価できる。

②平成24年度の評価結果を踏まえた、事業計画及び業務運営等に関して取るべき方策(改善のポイント)

(1)事業計画に関する事項

- ・助成事業については、今後、プログラムディレクター、プログラムオフィサーの配置による効果を明らかにし、広く国民に周知していくことが必要である。(項目別-2参照)
- ・公演事業に関しては、概ね計画どおりに実施されたが、伝統芸能、現代舞台芸術の両分野で入場率の未達が見受けられたことから、その要因分析と対策が必要である。(項目別-16,85参照)
- ・地方との連携に関しては、一部に改善は見られるが、より多くの国民にナショナルセンターの芸術活動に接してもらえるよう、全国ネットワークを広く構築して、各地での事業、広報活動に積極的な取組が望まれる。(項目別-60,113参照)
- ・伝承者の養成において、伝統芸能分野では、研修修了生の定着率が76%であり、修了生の約4分の1が転業している実態があることから、その要因を分析する必要がある。また、養成すべき分野について十分な見直しが必要である。(項目別-148参照)
- ・親子のための鑑賞教室・青少年のための鑑賞教室などに、より積極的に取り組むとともに、今後は、地方に向けた広報活動の更なる充実を図るなど、ひとりでも多くの子供たちに芸術文化に関心を持ってもらえる取組を期待したい。(項目別-135参照)
- ・調査研究においては目標を達成しており、これまでの継続性と蓄積は評価できるが、ルーティーン化の兆候が見られるので、調査研究体制も含めた見直しが望まれる。(項目別-182参照)

(2)業務運営に関する事項

- ・人事研修などを活用して職員の専門性を高めるよう、さらなる配慮を求めたい。(項目別-213参照)
- ・公演事業における職員のホスピタリティ、助成事業における手続きの簡素化など、お客さま視点での業務の見直しに、引き続き、努力してほしい。(項目別-210参照)

③特記事項

- ・東日本大震災の復興支援活動は、平成23年度に引き続き、着実に実施されていることを評価したい。今後も震災被災者への継続的な支援が望まれる。

文部科学省独立行政法人評価委員会
文化分科会 日本芸術文化振興会部会 名簿

<正委員>

田 淵 雪 子 行政経営コンサルタント

○山 本 健 一 演劇評論家

<臨時委員>

石戸谷 結子 音楽評論家

佐々木 涼子 舞踊評論家

古井戸 秀夫 東京大学教授

宮 島 博 和 公認会計士

(以上6名)

○ . . . 部会長

独立行政法人日本芸術文化振興会の平成24年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表

項目名	中期目標期間中の評価の経年変化※					項目名	中期目標期間中の評価の経年変化※				
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	A	A	A	A	(中項目名)調査研究の実施・資料の収集活用	A	A	A	A	A
(中項目名)文化芸術活動に対する援助	A	A	A	A	A	(小項目名)伝統芸能関係	A	A	A	A	A
(小項目名)助成金の交付	A	A	A	A	A	(細細目名)伝統芸能の調査研究	S	S	S	S	A
(小項目名)芸術団体等に対する各種情報等の収集及び提供	A	A	A	A	A	(細細目名)伝統芸能の調査研究資料の収集・活用	A	A	A	A	A
(小項目名)基金の管理運用	A	A	A	A	A	(細細目名)公演記録の作成・活用、普及活動の実施	A	A	A	A	A
(中項目名)伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	A	A	A	A	A	(小項目名)現代舞台芸術関係	B	B	B	B	B
(小項目名)伝統芸能の公開	A	A	A	A	A	(細細目名)現代舞台芸術の調査研究	B	B	B	B	B
(細目名)伝統芸能の公開	A	A	A	A	A	(細細目名)現代舞台芸術の調査研究資料の収集・活用	B	B	B	B	A
(細細目名)歌舞伎	A	A	A	A	A	(細細目名)公演記録の作成・活用、普及活動の実施	A	B	A	B	A
(細細目名)文楽	A	A	A	A	A	(大項目名)業務の効率化に関する目標を達成するための措置	A	A	A	A	A
(細細目名)舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか	A	A	A	A	A	(中項目名)業務運営の効率化	A	A	A	A	A
(細細目名)大衆芸能	A	A	A	A	A	(小項目名)効率化に関する取組み	A	A	A	A	A
(細細目名)能楽	A	A	A	A	A	(小項目名)随意契約の見直し	A	B	A	A	A
(細細目名)組踊等沖縄伝統芸能	A	B	B	A	A	(小項目名)給与水準の適正化等	A	A	A	A	A
(細細目名)演目の拡充	A	A	A	A	A	(中項目名)外部評価の実施	A	A	A	A	A
(細目名)連携協力・地方における上演等	B	B	B	B	B	(大項目名)財務内容の改善に関する事項	A	A	A	A	A
(細目名)快適な観劇環境の形成	A	A	A	A	A	(中項目名)予算、収支計画及び資金計画	A	A	A	A	A
(細目名)広報・営業活動の充実	A	A	A	A	A	(大項目名)その他主務省令で定める業務運営に関する事項	A	A	A	A	A
(小項目名)現代舞台芸術の公演	A	A	A	A	A	(中項目名)人事に関する計画	A	A	A	A	A
(細目名)現代舞台芸術の公演	A	A	A	A	A	(中項目名)施設及び設備に関する計画	A	A	A	A	A
(細細目名)オペラ	A	A	A	A	A	(中項目名)積立金の使途	A	A	A	A	A
(細細目名)バレエ	A	A	A	A	A	(中項目名)その他振興会の業務運営に関し必要な事項(運営委託)	B	A	A	A	A
(細細目名)現代舞踊	A	B	B	A	A						
(細細目名)演劇	A	A	A	A	A						
(細目名)連携協力・地方における上演等	B	B	A	B	B						
(細目名)快適な観劇環境の形成	A	A	A	A	A						
(細目名)広報・営業活動の充実	A	A	B	A	A						
(小項目名)青少年等を対象とした公演	A	A	A	A	A						
(細細目名)伝統芸能分野	A	A	A	A	A						
(細細目名)現代舞台芸術分野	A	A	A	A	A						
(小項目名)劇場施設の使用効率の向上等	A	B	B	A	A						
(細細目名)伝統芸能分野	A	A	A	A	A						
(細細目名)現代舞台芸術分野	B	B	B	A	A						
(中項目名)伝統芸能伝承者養成・現代舞台芸術実演家等の研修	A	A	A	A	A						
(小項目名)伝統芸能の伝承者の養成	A	A	A	A	A						
(小項目名)現代舞台芸術の実演家等の研修	A	A	A	A	A						

※当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

備考(法人の業務・マネジメントに係る意見募集結果の評価への反映に対する説明等)

【参考資料1】予算、収支計画及び資金計画に対する実績の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
収入						支出					
運営費交付金	11,023	10,985	10,570	10,244	9,874	一般管理費	1,065	975	1,054	1,237	1,109
文化芸術振興費補助金	—	5,178	4,493	4,248	3,791	事業費	9,597	9,663	9,571	9,231	9,306
施設整備費補助金	874	1,803	3,081	412	112	文化芸術振興費	—	4,924	4,306	4,056	3,635
公演事業収入	2,971	3,013	2,868	2,809	3,013	施設整備費	874	1,803	3,081	412	112
公演受託事業収入	25	11	39	0	20	公演事業費	2,835	2,974	2,840	2,863	2,932
基金運用収入	1,775	1,657	1,379	1,520	1,416	公演受託事業費	21	10	35	0	18
諸収入	122	81	107	93	112	基金助成事業費	1,844	1,383	1,641	1,603	1,432
計	16,790	22,728	22,537	19,326	18,338	計	16,236	21,732	22,528	19,402	18,544

(単位:百万円)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
費用						収益					
経常費用						運営費交付金収益	10,052	9,668	9,437	9,357	9,479
国立劇場公演等事業費	7,035	6,919	6,732	6,872	6,724	事業収入	4,428	4,280	4,004	4,033	4,261
新国立劇場公演等事業費	4,479	4,447	4,326	4,001	4,164	受託事業収入	25	11	39	0	20
基金助成事業費	2,024	6,355	5,994	5,711	5,116	財産利用収入	58	59	56	54	56
一般管理費	970	953	965	1,047	1,023	寄附金収益	—	—	—	—	—
減価償却費	930	1,011	1,055	1,088	1,037	資産見返負債戻入	680	765	767	811	770
財務費用	17	16	16	11	10	文化芸術振興費補助金収益	—	4,924	4,306	4,056	3,635
雑損失	1	5	5	4	1	設備整備補助金収益	—	—	19	—	1
臨時損失	1	—	1	33	4	財務収益	222	194	186	191	280
計	15,457	19,706	19,094	18,767	18,079	雑益	98	66	83	78	122
						臨時利益	4	10	46	35	4
						計	15,567	19,977	18,943	18,615	18,628
						純利益	109	264	△ 151	△ 152	549
						目的積立金取崩額	—	—	—	—	—
						総利益	109	264	△ 151	△ 152	549

(単位:百万円)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
資金支出						資金収入					
業務活動による支出	29,276	38,650	37,177	36,226	41,065	業務活動による収入	29,843	42,552	38,151	37,259	42,240
投資活動による支出	13,161	17,090	21,804	13,226	7,236	運営費交付金による収入	11,023	10,985	10,570	10,244	9,874
財務活動による支出	243	210	255	252	224	文化芸術振興費補助金による収入	—	5,178	4,493	4,248	3,791
翌年度への繰越金	3,331	6,312	5,646	5,155	5,143	公演事業による収入	2,759	2,772	2,717	2,515	2,716
						基金運用による収入	1,639	1,640	1,379	1,521	1,416
						公演受託事業による収入	58	14	43	13	0
						その他の収入	14,364	21,964	18,949	18,718	24,443
						投資活動による収入	12,589	16,379	20,419	11,954	6,273
						施設費による収入	470	1,753	3,309	662	55
						その他の収入	12,119	14,626	17,110	11,292	6,218
						財務活動による収入	0	0	0	0	0
						前年度よりの繰越金	3,579	3,331	6,312	5,646	5,155
計	46,011	62,262	64,882	54,859	53,668	計	46,011	62,262	64,882	54,859	53,668

備考(指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等)

【参考資料2】貸借対照表の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
資産						負債					
流動資産	9,594	11,960	11,317	12,401	8,415	流動負債	2,585	5,397	4,724	4,052	3,589
現金及び預金	3,770	6,739	6,174	5,665	5,343	運営費交付金債務	422	833	861	703	0
有価証券	4,840	4,310	4,500	6,399	2,500	預り文化芸術振興費補助金	—	254	187	191	156
事業未収金	62	79	55	68	93	預り芸術文化復興支援基金	—	—	—	1	5
未収金	439	515	267	14	120	未払金	1,779	3,829	3,198	2,757	2,970
貸倒引当金	△ 1	△ 1	△ 2	0	△ 1	短期リース債務	127	236	237	201	276
貯蔵品	5	4	1	1	4	未払費用	1	1	1	1	1
前渡金	—	—	—	—	—	預り金	82	81	84	37	36
未収収益	466	306	318	246	352	前受収益	166	156	150	154	139
その他流動資産	12	6	1	8	4	賞与引当金	7	7	5	6	6
固定資産	234,755	234,522	234,653	230,449	233,037	その他の流動負債	1	1	1	1	0
有形固定資産	163,581	162,918	163,282	161,007	159,568	固定負債	2,952	3,351	3,535	3,712	4,447
建物	55,472	53,261	51,153	49,207	47,988	資産見返運営費交付金	2,470	2,635	2,965	3,089	3,583
構築物	1,317	1,215	1,116	1,015	948	建設仮勘定見返運営費交付金	—	—	36	165	2
機械装置	2,744	3,607	5,938	5,204	4,923	資産見返寄附金	210	181	142	80	73
車両運搬具	3	3	2	2	7	長期リース債務	217	465	307	276	677
工具器具備品	1,324	1,584	1,342	1,211	1,445	退職給付引当金	56	70	85	102	112
書画工芸品	275	275	275	275	275						
図書資料	591	601	626	657	720						
土地	101,856	102,344	102,793	103,204	103,260						
建設仮勘定	—	27	36	232	2						
無形固定資産	273	207	166	134	193						
ソフトウェア	272	206	165	133	192						
電話加入権	1	1	1	1	1						
投資その他の資産	70,901	71,397	71,205	69,308	73,276						
投資有価証券	58,588	59,088	59,897	58,005	63,471	負債合計	5,537	8,748	8,259	7,764	8,036
長期性預金	12,300	12,300	11,300	11,300	9,800	純資産					
長期前払費用	3	—	—	—	—	資本金	246,819	246,819	246,819	246,819	246,819
敷金・保証金	3	2	2	1	0	資本剰余金	△ 9,087	△ 10,280	△ 10,114	△ 12,588	△ 14,786
長期事業未収金	1	1	1	1	0	利益剰余金	1,080	1,195	1,007	855	1,383
長期未収金	11	8	6	3	7	(うち当期未処分利益)	109	264	△ 151	△ 152	549
貸倒引当金	△ 5	△ 2	△ 1	△ 2	△ 2	純資産合計	238,812	237,734	237,712	235,086	233,416
資産合計	244,349	246,482	245,970	242,850	241,452	負債・純資産合計	244,349	246,482	245,970	242,850	241,452

備考(指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等)

【参考資料3】利益(又は損失)の処分についての経年比較(過去5年分を記載)
(単位:百万円)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
I 当期末処分利益					
当期総利益	109	264	△ 151	△ 152	549
前期繰越欠損金	-				
II 利益処分額					
積立金	109	264	△ 151	△ 152	549
独立行政法人通則法第44条第3項 により主務大臣の承認を受けた額	-	-	-	-	-

備考(指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等)

【参考資料4】人員の増減の経年比較(過去5年分を記載) (単位:人)

職種	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
定年制事務職員(管理系)	59	62	62	64	67
定年制事務職員(事業系)	243	245	239	231	225
	302	307	301	295	292

備考(指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等)

独立行政法人日本芸術文化振興会の平成24年度に係る業務の実績に関する評価

<p>【(大項目)1】</p>	<p>I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p>	<p>【評定】</p> <p style="text-align: center;">A</p>			
		<p>H20</p>	<p>H21</p>	<p>H22</p>	<p>H23</p>
		<p>A</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>【(中項目)1-1】</p>	<p>1 文化芸術活動に対する援助 振興会は、我が国の文化芸術活動への援助に関する中核的拠点として、芸術の創造又は普及を図るための活動、地域の文化の振興を目的として行う活動などに対して、多様な資金を活用した文化芸術活動に対する助成金の交付及びこれらに関する情報提供などに積極的に取り組むこと。</p>	<p>【評定】</p> <p style="text-align: center;">A</p>			
		<p>H20</p>	<p>H21</p>	<p>H22</p>	<p>H23</p>
		<p>A</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>【(小項目)1-1-1】</p>	<p>助成金の交付</p>	<p>【評定】</p> <p style="text-align: center;">A</p>			
		<p>H20</p>	<p>H21</p>	<p>H22</p>	<p>H23</p>
		<p>A</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>【法人の達成すべき計画】 1 芸術文化活動に対する援助 (1)助成金の交付 ア 国民が文化芸術に親しみ、自らの手で新しい文化を創造していく環境の醸成とその基盤の強化を図っていくとともに、我が国の芸術水準を向上させていくため、多様な資金を活用し、芸術家及び芸術団体等が実施する次に掲げる活動に対し助成金を交付する。 ①芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための公演、展示等の活動 ②文化施設において行う公演、展示等の活動又は文化財を保存し、若しくは活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの ③その他、文化に関する団体が行う公演並び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動 イ 助成金交付事務の効率化等 助成金の交付に際しては、助成金交付事務の効率化、審査手続き等に関する客観性及び透明性の確保並びにより効果的な援助を行う観点から、助成金の申請手続き、審査及び助成方法等について、以下の措置を講ずるとともに、外部専門家等による委員会において審査方法等選考に関する基準を策定・公表する。 ①地方公共団体、教育委員会との連携協力の推進の検討 ②助成の成果等に対する評価を踏まえた審査の充実を図るための助成対象活動の実施状況等調査及び調査結果や応募状況等を勘案した効果的かつ効率的な助成についての検討 ③助成金交付事務に係る情報システムの機能強化及び事務手続き・申請手続きの簡素化等、情報通信技術を活用した申請手続き等の合理化の検討を行い、交付申請書受理から交付決定までの期間については、前中期目標期間の実績以下とする。 ウ 助成金の交付に際しては、芸術文化団体等の文化芸術活動の充実・活性化や自助努力の助長など適切な助成効果が得られるよう配慮する。また、芸術文化団体等の自主性を十分尊重することに留意する。</p>		<p>実績報告書等 参照箇所 業務実績報告書 1頁～14頁</p>			

オ「独立行政法人整理合理化計画」(平成19年12月24日閣議決定)を踏まえ、平成21年度からを目途に文化庁の助成事業(芸術創造活動重点支援事業、文化芸術振興費補助金)と振興会の助成事業(舞台芸術振興事業、芸術文化振興基金)を統合・一元化することとし、これらのバランスを図り、より効果的な助成を行うことを目標として、平成20年度中に統合・一元化に向けた検討を行い、所要の措置を講じる。その際、全体の助成規模は拡大しないこととする。

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24
決算額(百万円)	1,890	6,177	5,819	5,516	4,907
従事人員数(人)	15	19	17	19	19

- 1) 決算額は、印刷製本費、通信運搬費、賃借料、リース料、委員手当、諸謝金、旅費交通費、芸術文化振興基金助成費、特定寄付金助成費、文化芸術振興費を計上している。
 2) 従事人員数は、基金部の常勤職員の人数を計上している。その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

評価基準(年度計画及び評価の視点)	実績	分析・評価																																																												
<p>1 文化芸術活動に対する援助 (1) 助成金の交付 ア 芸術文化振興基金(以下「基金」という。)の運用収入等を財源とする助成金の交付に関する計画 次に掲げる活動に対して助成金を交付したか。 ① 芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動 a. 多彩な芸術に親しむ環境の醸成に資する現代舞台芸術の創造普及のための公演活動 b. 伝統芸能に親しむ環境の醸成に資する伝統芸能の保存普及のための公開活動 c. 美術に親しめる環境の醸成に資する美術の創造普及のための展示活動 d. 国内において行われる映画祭及び多様な鑑賞機会の充実に資</p>	<p><1> 助成金の交付 1. 24年度助成金の交付実績 (1) 芸術文化振興基金助成金(芸術文化振興基金の運用収入等を財源)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>助成対象分野</th> <th>交付件数</th> <th>助成金交付額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">芸術創造普及活動</td> <td>現代舞台芸術創造普及活動</td> <td>241件</td> <td>626,200千円</td> </tr> <tr> <td>音 楽</td> <td>46件</td> <td>180,000千円</td> </tr> <tr> <td>舞 踊</td> <td>44件</td> <td>77,400千円</td> </tr> <tr> <td>演 劇</td> <td>151件</td> <td>368,800千円</td> </tr> <tr> <td>伝統芸能の公開活動</td> <td>48件</td> <td>59,900千円</td> </tr> <tr> <td>美術の創造普及活動</td> <td>12件</td> <td>16,700千円</td> </tr> <tr> <td>多分野共同等芸術創造活動</td> <td>19件</td> <td>22,100千円</td> </tr> <tr> <td>小 計</td> <td>320件</td> <td>724,900千円</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">映像芸術創造活動</td> <td>国内映画祭等の活動</td> <td>51件</td> <td>119,700千円</td> </tr> <tr> <td>国内映画祭</td> <td>37件</td> <td>102,500千円</td> </tr> <tr> <td>日本映画上映活動</td> <td>14件</td> <td>17,200千円</td> </tr> <tr> <td>小 計</td> <td>51件</td> <td>119,700千円</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">地域文化振興活動</td> <td>地域文化施設公演・展示活動</td> <td>202件</td> <td>287,400千円</td> </tr> <tr> <td>文化会館公演活動</td> <td>128件</td> <td>139,200千円</td> </tr> <tr> <td>美術館展示活動</td> <td>74件</td> <td>148,200千円</td> </tr> <tr> <td>歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動</td> <td>9件</td> <td>10,200千円</td> </tr> <tr> <td>民俗文化財の保存活用活動</td> <td>27件</td> <td>18,800千円</td> </tr> <tr> <td>小 計</td> <td>238件</td> <td>316,400千円</td> </tr> </tbody> </table>	助成対象分野	交付件数	助成金交付額	芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	241件	626,200千円	音 楽	46件	180,000千円	舞 踊	44件	77,400千円	演 劇	151件	368,800千円	伝統芸能の公開活動	48件	59,900千円	美術の創造普及活動	12件	16,700千円	多分野共同等芸術創造活動	19件	22,100千円	小 計	320件	724,900千円	映像芸術創造活動	国内映画祭等の活動	51件	119,700千円	国内映画祭	37件	102,500千円	日本映画上映活動	14件	17,200千円	小 計	51件	119,700千円	地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	202件	287,400千円	文化会館公演活動	128件	139,200千円	美術館展示活動	74件	148,200千円	歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動	9件	10,200千円	民俗文化財の保存活用活動	27件	18,800千円	小 計	238件	316,400千円	<p>・文化芸術活動に対する助成事業をより効果的なものとするため、プログラムディレクター及びプログラムオフィサーによる新しい審査・評価方法を平成23年度から導入し、平成24年度からは、演劇分野及び伝統芸能・大衆芸能分野にも拡大し、助成に関する審査・評価等の機能の強化を図ったことは評価したい。</p> <p>・プログラムディレクター及びプログラムオフィサーを配置する等、助成対象事業に係るPDCAサイクルは強化されつつあるが、助成の目的に対し想定した効果が得られたかは、資料からは判断できない。いまだ、その成果が現状をどう変えるか見えてこない</p>
助成対象分野	交付件数	助成金交付額																																																												
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	241件	626,200千円																																																											
	音 楽	46件	180,000千円																																																											
	舞 踊	44件	77,400千円																																																											
	演 劇	151件	368,800千円																																																											
	伝統芸能の公開活動	48件	59,900千円																																																											
	美術の創造普及活動	12件	16,700千円																																																											
	多分野共同等芸術創造活動	19件	22,100千円																																																											
小 計	320件	724,900千円																																																												
映像芸術創造活動	国内映画祭等の活動	51件	119,700千円																																																											
	国内映画祭	37件	102,500千円																																																											
	日本映画上映活動	14件	17,200千円																																																											
小 計	51件	119,700千円																																																												
地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	202件	287,400千円																																																											
	文化会館公演活動	128件	139,200千円																																																											
	美術館展示活動	74件	148,200千円																																																											
	歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動	9件	10,200千円																																																											
	民俗文化財の保存活用活動	27件	18,800千円																																																											
	小 計	238件	316,400千円																																																											

する特色ある日本映画の上映活動

e. 特定の芸術分野にしばられない活動や、新しい試みなど独創性に富んだ芸術創造活動

② 地域の文化の振興を目的として行う活動

a. 地域の文化の振興に資する文化会館、美術館その他の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動

b. 地域の文化の振興に資する伝統的建造物群、民俗芸能その他の文化財を保存し、又は活用する活動

③ 文化に関する団体が行う文化の振興又は普及を図るための活動

a. 文化の発展普及に資することを主たる目的とするアマチュア等の文化団体が行う公演、展示その他の活動

b. 伝統工芸技術・文化財保存技術の保存・伝承等、我が国の文化財の保存伝承等に資する活動

イ 文化芸術振興費補助金（以下「補助金」という。）を財源とする助成金の交付に関する計画

次に掲げる活動に対して助成金を交付したか。

① 意欲的な取組みにより我が国の舞台芸術の水準向上に資すると認められる創作性・芸術性の高い、国内で実施される優

文化振興普及団体活動	アマチュア等の文化団体活動	126件	86,500千円
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	10件	18,500千円
	小 計	136件	105,000千円
合 計		745件	1,266,000千円

(2) 文化芸術振興費補助金による助成金（文化芸術振興費補助金を財源）

助成対象分野		交付件数	助成金交付額
トップレベルの舞台芸術創造事業	音 楽	119件	1,771,100千円
	舞 踊	35件	393,700千円
	演 劇	126件	749,900千円
	伝統芸能	32件	55,700千円
	大衆芸能	19件	71,600千円
小 計		331件	3,042,000千円
映画製作への支援	劇映画	22件	340,000千円
	記録映画	19件	91,000千円
	アニメーション映画	12件	94,000千円
	小 計	53件	525,000千円
合 計		384件	3,567,000千円

ことから、今後は、その効果を明らかにし、広く国民に周知していくことが必要である。

・助成金交付に係る業務に関しては、助成システムの見直し等により、申請書受理から交付決定までの期間が、昨年に比べ、基金を財源とする助成で4.5日、補助金を財源とする助成で6.9日短縮されるなど、大幅に改善されたことは評価できる。

2. 25年度助成対象活動の募集実績

(1) 芸術文化振興基金（芸術文化振興基金の運用収入等を財源）

助成対象分野		応募件数	採択件数	助成金交付予定額
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	612件	239件	600,700千円
	音 楽	125件	46件	204,400千円
	舞 踊	97件	43件	73,700千円
	演 劇	390件	150件	322,600千円
	伝統芸能の公開活動	82件	42件	52,400千円
	美術の創造普及活動	20件	8件	15,700千円
	多分野共同等芸術創造活動	63件	17件	23,400千円
	小 計	777件	306件	692,200千円
映像芸術創造活動	国内映画祭等の活動	58件	34件	86,900千円
	国内映画祭	43件	26件	78,300千円
	日本映画上映活動	15件	8件	8,600千円
	小 計	58件	34件	86,900千円
地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	361件	216件	294,300千円
	文化会館公演活動	214件	130件	143,300千円
	美術館等展示活動	147件	86件	151,000千円
	歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動	11件	11件	10,000千円
	民俗文化財の保存活用活動	34件	26件	14,900千円

れた舞台芸術活動
 ② 我が国の優れた映画の製作活動を奨励し、映画芸術の振興に資する日本映画の製作活動
 ウ 助成金交付事務の効率化等

- ① 地域の文化振興等の活動については、都道府県に対し、要望書の受付窓口及び推薦に係る業務について協力を求めるとともに、提出された要望書の内容について、都道府県からヒアリングを実施することにより、一層効果的な助成に努めたか。
- ② 助成対象活動の調査及び効率的・効果的な助成方法についての検討等に関する計画
- a. 助成の成果等に対する評価を踏まえた審査の充実を図るため、助成対象活動について外部有識者による公演等調査を行うほか、プログラムディレクター、プログラムオフィサー及び職員による会計調査及び公演等調査を実施し、審査への反映を図ったか。
- ・ 会計調査及び公演等調査: 350 件以上
- b. 助成対象分野の現状についての調査結果及び助成対象活動についての公演等調査の結果などを踏まえ、より効果的かつ効率的な助成方策について検討したか。

	小 計	406 件	253 件	319,200 千円
文化振興普及団体活動	アマチュア等の文化団体活動	265 件	142 件	97,100 千円
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	13 件	10 件	17,100 千円
	小 計	278 件	152 件	114,200 千円
合 計		1,519 件	745 件	1,212,500 千円

注：映像芸術創造活動には、第 2 回募集分は含まれていない。

(2) 文化芸術振興費補助金による助成金（文化芸術振興費補助金を財源）

助成対象分野		応募件数	採択件数	助成金交付予定額
トップレベルの 舞台芸術創造事業	音 楽	145件	120件	1,813,000千円
	舞 踊	53件	35件	414,000千円
	演 劇	191件	120件	750,000千円
	伝統芸能	48件	33件	58,000千円
	大衆芸能	20件	14件	93,000千円
	小 計	457件	322件	3,128,000千円
映画製作への支援	劇映画	30件	11件	160,000千円
	記録映画	22件	9件	33,000千円
	アニメーション映画	4件	2件	23,000千円
	小 計	56件	22件	216,000千円
合 計		513件	344件	3,344,000千円

注：映画製作への支援には、第2回募集分は含まれていない。

< 2 > 助成金交付事務の効率化等

1. 都道府県との協力

都道府県経由で応募を受け付ける助成活動については、都道府県担当者を対象とした助成活動募集の説明会を実施するとともに、都道府県経由で応募のあった活動については、都道府県担当者からヒアリングを実施して状況把握に努めた。

2. 助成対象活動の調査及び助成方法の検討

(1) 助成対象活動に対する調査（目標：350 件以上）

区 分	実 績
会計調査	96 件 (調査活動 247 件)
公演等調査	725 件 (調査活動 725 件)
合 計	821 件 (調査活動 972 件)

(2) 調査結果を踏まえた効果的かつ効率的な助成方策の検討

助成対象活動に係る「助成の効果」について、23 年度助成対象活動実績報告書に記載された内容の整理、分類を実施した。

c. 補助金を財源とする助成金の舞台芸術分野について、プログラムディレクター及びプログラムオフィサー等を配置し、助成に関する審査・評価等の機能を強化するとともに、事後評価の実施など新たな審査・評価等の仕組みの導入について引き続き検討したか。

③ 助成金交付事務に係る助成業務システムについて、事務手続き等の簡素・合理化が行われるよう、応募書類の電子データによる受付・管理など実務の実態を踏まえたシステムの機能強化を図ったか。

基金及び補助金の助成事業の交付申請書受理から交付決定までの期間について40日以下としたか。

④ 助成金の交付対象を明確化するとともに、助成金の交付に関し公平・公正性を期すため、各専門委員会における審査の方法など選考に関する基準を策定し、ホームページ及び冊子で公表したか。

エ 助成金の交付に当たっては、芸術文化団体等の自主性を尊重しつつ、活動の実態に応じて効果的に実施したか。

○ 集計結果: 調査対象件数 1,347 件(複数回答を含む)

事 項	件数
団員(団体)の金銭的負担が軽減されたことによって、活動に専念できた	373 件
質の高い外部の出演者・演出者・舞台スタッフ及び展示品等により活動を実施できた	341 件
質の高い会場・設営・舞台設備により活動を実施できた	215 件
宣伝広告等を充実させることができ、周知の機会が増えた	214 件
活動内容(回数、演目、曲目、ワークショップ、図録等)の充実を図ることができた	179 件
当初の計画どおりに活動が実施できた	118 件
チケット単価を安くして、集客目標を達成することができた	114 件
補助金・協賛金・銀行融資等を受けやすくなったなど、対外的信用度が増大した	71 件
チケット単価を安くして、特定層以外の観客を集める機会を得た	70 件
創造的・実験的事業(団体にとっての挑戦的な演目)の活動を実施した	69 件
地域の方に質の高い公演・活動を見せることができた	58 件
団体(又は活動)の外部評価が向上した(活動前の広報、活動後の評価)	33 件
活動が地域に浸透し、地域に根ざした活動として発展することができた	32 件
団体の今後の活動におけるの向上心・発展性につながった	25 件
国際交流を行えた	24 件
編集・仕上げ・特殊効果等、充実を図ることができた。	16 件
活動が採択されて、団体にとって励みとなった	15 件
地域住民参加による活動が実施できた(出演者・裏方・ボランティア)	13 件
県内外からの来場者により地域が活性化した	12 件
十分な撮影体制(フィルムで撮影・撮影日数を増やす等)により、質の高い作品ができた	12 件
小・中・高生等を無料招待することができた	11 件
地域文化財への理解が深まった	9 件
地域の文化団体と他の文化団体との交流が持てた	6 件
団体内で技術の向上が見られた	5 件
地域住民へ身近な文化財の存在を周知できた	5 件
普及・啓発及び記録保存のための印刷物等が作成できた	5 件
ロケ地での協力(現場使用・エキストラ参加等)を得ることができた	4 件
伝統芸能・伝統技術の継承に役立った	4 件
後継者の育成に役立った	3 件
その他	1,164 件

(3) プログラムディレクター及びプログラムオフィサー等による審査・評価等
振興会が行う文化芸術活動に対する助成事業をより効果的なものとするため、専門的な知識や調査研究に基づく助言、情報提供等を行うプログラムディレクター及びプログラムオフィサーを設置している。
23年度から補助金による助成のうち、音楽分野及び舞踊分野にプログラムディレクター及びプログラムオフィサーを配置し、加えて24年度からは対象分野を拡大し、演劇分野及び伝統芸能・大衆芸能分野にプログラムディレ

クター及びプログラムオフィサーを配置して、審査基準案の作成、助成対象活動の調査・分析、事後評価の導入に向けた事後評価案作成、また、複眼的に公演等調査を行うとともに助成対象団体との意見交換を通じて、幅広く助言等を行った。

○補助金による助成の4分野について配置

- ・音楽分野(23年度より配置) プログラムディレクター1名、プログラムオフィサー3名
- ・舞踊分野(23年度より配置) プログラムディレクター1名、プログラムオフィサー3名
- ・演劇分野(24年度より配置) プログラムディレクター1名、プログラムオフィサー6名
- ・伝統芸能・大衆芸能分野(24年度より配置) プログラムディレクター1名、プログラムオフィサー2名

(4) 芸術文化活動に対する助成制度に関する調査分析事業の実施

今後の芸術文化活動に対する助成制度及び助成事業の在り方等を検討するため、文化庁から委託事業として芸術文化活動に対する助成制度に関する調査分析事業を行った。

○調査分析事業の内容

- ・我が国の芸術文化活動に対する助成制度の経緯把握
- ・近年の助成実績のデータ化
- ・パイロット事業立案に向けた国内外の先事例の調査等

3. 事務手続き等の簡素化・合理化

(1) 情報システムの機能強化等

新たな補助制度の導入に伴い、基金助成システムを見直すとともに入力作業等の簡素化を図った。

また、助成金交付要望書など申請書類のインターネットによる受付について検討を開始した。

(2) 助成金の交付申請書受理から交付決定までの期間の短縮

区 分	実 績	目 標
芸術文化振興基金助成金	21.2 日	40.0 日
文化芸術振興費補助金による助成金	20.6 日	40.0 日
全 体	20.9 日	40.0 日

4. 各専門委員会における選考に関する基準の策定と公表

(1) 25年度助成対象活動の審査状況

芸術文化振興基金運営委員会及び4部会、13専門委員会において、以下のとおり審査を行った。

① 芸術文化振興基金運営委員会

第28回:7月3日、第29回:9月18日、第30回:1月30日、第31回:3月19日

② 舞台芸術等部会(2回開催・3月)

- ・音楽専門委員会(3回開催・8月、11月、2月)
- ・舞踊専門委員会(3回開催・8月、12月、2月)
- ・演劇専門委員会(4回開催・8月(合同)、11月(合同)、2月(第1分科会1回、第2分科会1回))
- ・伝統芸能・大衆芸能専門委員会(3回開催・8月、12月、2月)
- ・美術専門委員会(2回開催・11月、2月)
- ・多分野共同等専門委員会(2回開催・12月・2月)

③ 映像芸術部会(1回開催・3月)

- ・劇映画専門委員会(2回開催・12月、2月)
- ・記録映画専門委員会(2回開催・12月、3月)
- ・アニメーション映画専門委員会(2回開催・12月、2月)
- ・映画祭等専門委員会(2回開催・12月、2月)
- ④地域文化・文化団体活動部会(1回開催・3月)
 - ・地域文化活動専門委員会(2回開催・11月、2月)
 - ・文化団体活動専門委員会(2回開催・11月、2月)
- ⑤文化財部会(1回開催・3月)
 - ・文化財保存活用専門委員会(2回開催・11月、2月)

○審査経過概要

9月18日	第29回芸術文化振興基金運営委員会を開催し、平成25年度の助成活動募集案内の内容等を了承。
11月中旬～12月中旬	各専門委員会において、事前審査及び合議審査に先立ち、「専門委員会における審査の方法等について」を審議、決定。
12月下旬～2月下旬	各専門委員会による応募活動1件ごとの事前審査。
1月30日	第30回芸術文化振興基金運営委員会を開催し、応募状況についての報告及び助成金の分野別配分予算案について審議、決定。
2月上旬～3月上旬	各専門委員会において、事前審査の集計結果をもとに、合議審査により、助成金交付要望書の審査及び助成対象活動を選定。
3月上旬～3月中旬	各部会において助成対象活動の採否及び助成金交付予定額の審議。
3月19日	第31回芸術文化振興基金運営委員会を開催し、助成対象活動及び助成金交付予定額について審議、決定。

(2)選考に関する基準の策定と公表

文化芸術振興費補助金による助成事業(トップレベルの舞台芸術創造事業)の分野について、事前にホームページ等を通じて審査基準を公表した。

また、25年度の芸術文化振興基金助成対象活動として内定した活動について、活動名、助成金交付予定額、審査に当たった委員の氏名、審査の方法等について公表した(芸術文化振興基金助成事業は平成25年3月27日。文化芸術振興費補助金による助成事業の公表は予算成立後)。

(3)24年度助成対象活動の決定に関する公表状況

第1回募集分について:芸術文化振興基金助成対象活動は平成24年3月29日付けで、文化芸術振興費補助金による助成対象活動は平成24年4月9日付けでホームページ等において公表した。

映画に関する第2回募集分について:芸術文化振興基金助成対象活動は平成24年9月28日付けで、文化芸術振興費補助金による助成対象活動は平成24年11月22日付けでホームページ等において公表した。

また、あわせて助成対象活動一覧のほか審査経過等も含めホームページ等で公表した。

<3>芸術文化団体等の自主性の尊重、活動実態に応じた効果的な助成の実施

平成23年度から音楽分野及び舞踊分野に、また、平成24年度には演劇分野及び伝統芸能・大衆芸能分野にプログラムディレクター及びプログラムオフィサーを配置し、助成団体との意見交換の場を設けるなど、団体の活動に関し、幅広く助言等を行った。

- ・音楽分野:5月～6月 参加団体28団体

- ・舞踊分野：4月～7月 参加団体23団体
- ・演劇分野：6月～11月 参加団体21団体
- ・伝統芸能・大衆芸能分野：6月～7月 参加団体9団体

《数値目標の達成状況》

【会計調査及び公演等調査の実施状況】実績821件／目標350件以上(達成度234.6%)

【交付決定に係る期間の効率化の達成状況】実績20.9日／目標40日以内(達成度191.4%)

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 23年度より開始した年間活動支援型の導入に伴う助成システムの見直しに合わせ、入力作業等の簡素化を図るなど、事務手続きの簡素化・合理化に努めた結果、交付決定までの期間について目標日数を達成することができた。
- ・ 助成対象活動の調査・分析、事後評価の導入に向けた事後評価案作成、また、複眼的に公演等調査を行うとともに助成対象団体との意見交換を通じて団体の活動等について幅広く助言等を行った。さらに、助成活動の審査に当たっても、公演等調査の評価を適切に反映することができた。

【(小項目)1-1-2】 芸術団体等に対する各情報等の収集及び提供		【評定】			
【法人の達成すべき計画】 (2) 助成に関する情報等の収集及び提供 文化芸術活動に対する援助の中核的拠点として、文化芸術活動に関する情報を収集し、データベース化やホームページを通じた提供等を推進する。ホームページにおいては、募集案内、助成対象活動をはじめとする芸術文化団体等に対する各種情報等の提供を充実させ、中期目標期間のアクセス件数を前中期目標期間の実績以上とする。また、広報誌を定期的に発行する。		A			
		H20	H21	H22	H23
		A	A	A	A
		実績報告書等 参照箇所			
		業務実績報告書 13頁～14頁			
【インプット指標】					
(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24
決算額(百万円)	9	13	9	12	10
従事人員数(人)	15	19	17	19	19
1) 決算額は、新聞図書費、印刷製本費、通信運搬費を計上している。 2) 従事人員数は、基金部の常勤職員の人数を計上している。その際、役員及びその他の職員は勘案していない。					
評価基準(年度計画及び評価の視点)	実績				分析・評価
1 文化芸術活動に対する援助 (2) 助成に関する情報等の収集及び提供 ア ホームページにおいては、募集案内、助成対象活動をはじめとする芸術団体等に対する各種情報等、提供する情報の充実を図るとともに、迅速化に努めたか。 また、文化芸術活動に対する援助の中核的拠点として、文化芸術活動へ助成を行う民間助成団体に関する情報のデータベースを更新して提供するとともに、今後もインターネットによる広報の有効性に着目し、ホームページの一層の利便性向上に努めたか。 ・ 目標アクセス件数：126,000件 イ 振興会における文化芸術活動に関する助成業務を周知するた	<6> 助成に関する情報等の収集及び提供 1. ホームページの利便性の向上 (1) 24年度アクセス件数：124,887件(目標126,000件) (2) ホームページの構成・内容を随時見直し、利便性の向上を図っている。 2. 助成事業の周知 (1) 基金助成事業に関するチラシの他、芸術文化復興支援基金及び芸術文化振興基金賛助会員制度に関するリーフレット等を作成・配布するなど、助成事業に関し幅広く広報活動を行った。 ① 助成団体から活動時に配布してもらう広報用チラシ360件、313,540枚配布 ② 芸術文化復興支援基金リーフレット、ポスター、チラシの作成・配布 ③ 芸術文化振興基金賛助会員制度に関するリーフレットの作成・配布 (2) 当振興会が行っている助成事業の概要を紹介したパンフレット(二つ折り「基金の概要」)を作成・配布した。 (3) 助成団体に、活動時会場等に掲出してもらう広報用ポスターを新たに作成・配付(500件、500枚掲出した。なお、広報用チラシ・ポスターについては平成24年度芸術文化振興基金助成対象活動採択団体すべてに送付し、活動実施時の広報に協力を依頼した。 (4) 23年度の助成対象活動の事例集(芸術文化振興基金及び文化芸術振興費補助金による助成25活動を紹介したA4判カラー冊子)を作成・配布した。 3. 助成対象活動の募集 (1) 25年度助成対象活動募集案内チラシ及びポスターを都道府県、政令指定都市、公立文化施設、				・ ホームページのアクセス件数が目標を達成していないが、助成事業の周知に関して、チラシや広報ポスターなどの作成・配布を行うとともに、地方で募集説明会を開催するなど助成活動の広報・周知に努めたことは評価できる。 ・ 今後は、募集説明会への参加の状況や、応募者の情報入手経路を分析するなど、公平性の観点から、チラシ等の紙媒体の配布、説明会の開催にとどまらず、制度のさらなる周知を実施すべきである。

<p>めに、広報誌等を作成・配布したか。</p> <p>ウ 助成対象活動の募集に当たっては、芸術関係誌等への広告掲載及びホームページへの情報掲載を行うとともに、地方公共団体及び全国の公立文化施設等へポスター等を配布したか。</p> <p>エ 芸術団体等を対象とした助成対象活動の募集説明会について、東京、大阪に加え、他地域でも開催したか。</p>	<p>大学などに送付し、広報協力を依頼した。</p> <p>(2)25年度助成対象活動募集の広告を掲載した(音楽、舞踊、演劇、美術、映画関係各誌7誌、9月上旬～10月下旬)。</p> <p>(3)「日本芸術文化振興会ニュース」及び「文化庁月報」に、基金の概要、助成対象活動の募集案内や助成制度の概要など、広く助成活動に関する情報を掲載した。(毎月)</p> <p>4. 助成対象活動の募集説明会の開催</p> <p>①東京都開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月2日(火) :映画製作団体、映画祭等上映団体対象 会場: 国立劇場 伝統芸能情報館レクチャー室、参加数: 160団体、199名 ・10月3日(水)～4日(木) :地域文化振興活動、文化振興普及団体活動等 都道府県担当者対象 会場: 国立劇場 第一会議室、参加数: 32団体、32名 ・10月15日(月): 音楽、舞踊、演劇、伝統芸能・大衆芸能、美術等主として芸術団体等対象 会場: 日本青年館 大ホール、参加数: 550団体、752名 <p>②大阪府開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月5日(金): 音楽、舞踊、演劇、伝統芸能・大衆芸能、美術等主として芸術団体等対象 会場: ホテルアウイーナ大阪、参加数: 139団体、176名 <p>③岩手県開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月10日(水): 地域文化振興活動、文化振興普及団体活動等団体対象 会場: いわて県民情報交流センターホール、参加数: 31団体、38名 <p>④臨時募集説明会(映画製作・アニメーション映画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月12日(土): 映画製作への支援 アニメーション映画(短編B)製作団体対象 会場: 国立劇場 第一会議室、参加数: 49名 <p>《数値目標の達成状況》</p> <p>【芸術文化振興基金ホームページへのアクセス件数】実績124,887件／目標126,000件(達成度99.1%)</p> <p>《自己点検評価》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 良かった点・特色ある点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 助成活動について、ホームページを通じて幅広く情報を提供するとともに、地方でも説明会を開催するなど、助成活動の広報・周知に努めた。 ○ 見直し又は改善を要する点 <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページのアクセス件数の目標が僅かに届かなかった。助成対象活動への応募件数が増えるよう、引き続き広報活動を行うとともに、ホームページによる情報提供も含め、より効果的な広報の仕方について検討していきたい。 	
---	--	--

【(小項目)1-1-3】	基金の管理運用	【評定】 A			
【法人の達成すべき計画】 エ 芸術文化振興基金の管理運用については、安全性を重視するとともに、安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、資金内容及び経済情勢の正確な把握に努め、各年度に定める運用方針のもとに、効率的な方法により行う。		H20	H21	H22	H23
		A	A	A	A
		実績報告書等 参照箇所			
		業務実績報告書 12頁～13頁			

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24
決算額(百万円)	1,775	1,657	1,379	1,520	1,416
従事人員数(人)	7	8	7	6	7

1) 決算額は、基金運用収入を計上している。
 2) 従事人員数は、経理課の常勤職員の人数を計上している。その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

評価基準(年度計画及び評価の視点)	実績	分析・評価
1 文化芸術活動に対する援助 (1) 助成金の交付 オ 基金の管理運用については、安全性を重視するとともに、安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、資金内容及び経済情勢の正確な把握に努め、振興会に設置する資金管理委員会において運用方針、金融商品等の検討を行い、効率的な方法により実施したか。 また、この資金の受入拡充に向けて創設した芸術文化振興基金賛助会制度の周知を図りつつ、その資金の確保に努めたか。 カ 東日本大震災に伴う被災地の復興支援を目的とした芸術文化復興支援基金による助成事業について、周知を図りつつ、その助成に必要な資金の確保に努めたか。	< 4 > 芸術文化振興基金の管理運用、資金の受入拡充 1. 芸術文化振興基金の管理運用 (1) 運用益1,527,320千円(当初計画 1,407,871千円、119,449千円の増) (2) 利回り2.32%(当初計画 2.14%) 基金の管理運用については、安全性を重視するとともに安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、資金内容及び経済情勢の正確な把握に努めた。 平成20年4月に設置した資金管理委員会において、運用の基本的考え方を定めるとともに金融商品・再運用先等の検討を行うことにより、低金利下においても必要とする運用益が得られるよう、リスクとリターンを考慮しながら引き続き効率的な管理運用に努めた。 2. 資金の受入拡充 (1) 寄付先への感謝状の贈呈並びにホームページ等での広報 原則10万円を超える寄付(出えん金収入)者(団体)については、通常の礼状に加え感謝状を贈呈したほか、承諾を得た寄付者(団体)については、寄付者(団体)名をホームページで広報するなど寄付金の増額に向けて取り組んだ。 ・芸術文化振興基金への寄付：24年度実績10件368,360円 (2) 「社会貢献寄付信託」の受入に向けた取り組み 三井住友信託銀行の「社会貢献寄付信託」の文化芸術分野の寄付先として、その受入に必要な環境を整備するとともに、寄附受入に向け関係金融機関と連携し広報活動を行った。	・基金の運用に関しては、実際の運用益が当初計画予算の見積額を上回った。 ・芸術文化復興支援基金への寄付の受入が順調に進んでいることは評価したい。 ・今後は、個人、団体からの寄附金の増額に向けた、さらなる積極的な対応が期待される。

<p>キ 平成 21 年度に統合・一元化した助成事業について、引き続き円滑・効率的に実施するとともに、説明会やホームページを通じて助成の制度や内容等について情報提供に努めたか。</p>	<p>(3)「芸術文化振興基金賛助会員制度」による寄付受入 「芸術文化振興基金賛助会員制度」の周知を図るとともに、寄付金受入に向け広報活動を行った。</p> <p><5>芸術文化復興支援基金による助成 「芸術文化復興支援基金」への寄付受入 東日本大震災における被災地の復興支援を目的とする芸術文化活動を支援するため、「芸術文化復興支援基金」を立ち上げ、支援に必要な資金確保に向け、劇場ロビー等での募金活動に努めた。</p> <p>・芸術文化復興支援基金:24 年度実績 2,911,898 円</p> <p>《自己点検評価》</p> <p>○ 良かった点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国債の運用収入について、12 月以降は、年度計画策定時に想定していた為替水準に比して円安傾向で推移したことにより年度計画予算での見積額を上回った。また、再運用に当たっては安定した収入を確保するとともに資産の安全性を重視し、少しでも有利な運用を行えるよう多くの金融機関から情報収集を行った。 <p>○ 見直し又は改善を要する点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ より安定的、継続的な助成が可能となるよう、寄付金の増額に向けて、広報活動も含め、多様な方策を検討していきたい。 	
--	---	--

<p>【(中項目)1-2】</p>	<p>2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演</p> <p>伝統芸能の保存振興及び現代舞台芸術の振興普及を図るため、前期中期目標期間の実績を踏まえ、より多くの人々が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標とし、次のとおり伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演を行うこと。また、次の観点からこれらの公演の充実等を図ること。</p>	<p>【評定】</p> <p style="text-align: center;">A</p>																																																					
		H20	H21	H22	H23																																																		
		A	A	A	A																																																		
<p>【(小項目)1-2-1】</p>	<p>伝統芸能の公開</p>	<p>【評定】</p> <p style="text-align: center;">A</p>																																																					
		H20	H21	H22	H23																																																		
		A	A	A	A																																																		
<p>【(細目)1-2-1-①】</p>	<p>伝統芸能の公開</p>	<p>【評定】</p> <p style="text-align: center;">A</p>																																																					
		H20	H21	H22	H23																																																		
		A	A	A	A																																																		
<p>【法人の達成すべき計画】</p>		<p>実績報告書等 参照箇所</p>																																																					
<p>2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 [伝統芸能の公開]</p>		<p>業務実績報告書 15頁～70頁</p>																																																					
<p>(1) 伝統芸能の公開</p>		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 10%;">H20</th> <th style="width: 10%;">H21</th> <th style="width: 10%;">H22</th> <th style="width: 10%;">H23</th> <th style="width: 10%;">H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歌舞伎</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>文楽</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>大衆芸能</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>能楽</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>組踊等 沖縄伝 統芸能</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>演目の</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table>							H20	H21	H22	H23	H24	歌舞伎	A	A	A	A	A	文楽	A	A	A	A	A	舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか	A	A	A	A	A	大衆芸能	A	A	A	A	A	能楽	A	A	A	A	A	組踊等 沖縄伝 統芸能	A	B	B	A	A	演目の	A	A	A	A	A
	H20	H21	H22	H23	H24																																																		
歌舞伎	A	A	A	A	A																																																		
文楽	A	A	A	A	A																																																		
舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか	A	A	A	A	A																																																		
大衆芸能	A	A	A	A	A																																																		
能楽	A	A	A	A	A																																																		
組踊等 沖縄伝 統芸能	A	B	B	A	A																																																		
演目の	A	A	A	A	A																																																		
<p>伝統芸能の公開については、つとめて古典伝承のままの姿で、なるべく広く、各種の伝統芸能の演出や技法を尊重しながら、その正しい維持と保存に努めることとし、中期目標の期間中以下のとおり伝統芸能の公開を行う。</p>																																																							
<p>ア 歌舞伎公演</p>																																																							
<p>原典を尊重し、筋の展開が理解しやすい「通し狂言」での上演を基本とし、その上で上演の途絶えた優れた演目の復活上演、途絶えつつある演出や場面の復活、新歌舞伎等の見直し、歌舞伎の新作の上演、解説を付した入門公演等に努め、歌舞伎の継承と普及を図る。年間7公演程度実施する。</p>																																																							
<p>イ 文楽公演</p>																																																							
<p>筋の展開が理解しやすい「通し狂言」や、観客層の拡大を図るため現代の嗜好を活かし、見せ場を中心に複数演目を並べる「見取り狂言」等の様々な上演形態により鑑賞できる機会を提供する。また、伝統を基盤にした新作の上演や中絶した古典演目の復活上演等にも取り組み、文楽の継承と普及を図る。年間10公演程度実施する。</p>																																																							
<p>ウ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等公演</p>																																																							
<p>それぞれの芸能について、質の高い技芸の公開を基本としつつ、芸能の希少性や芸能史上の価値の再認識をもたらす公演、特定のテーマにより構成した企画性が高い公演等の実施により、多様な芸能の継承と普及を図る。全体で年間21公演程度実施する。</p>																																																							
<p>エ 大衆芸能公演</p>																																																							
<p>落語、講談、浪曲、漫才をはじめ、奇術、太神楽(曲芸)等、寄席を中心に受け継がれてきた伝統的な大衆芸能について、多彩な出演者により企画性の高い公演を実施するなど幅広く鑑賞できる機会を提供し、その技芸の向上に資するとともに、観客層の拡大に努め、これらの継承と普及を図る。年間65公演程度実施する。</p>																																																							
<p>オ 能楽公演</p>																																																							
<p>伝統的な能狂言の演目と各流の演者を能楽全体を見渡す視点に立って組み合わせ、年間を通じて上演するとともに、解説を付した公演の実施や新作能狂言、復曲の試みなど、多様な活動により能楽の継承と普及を図る。年間51公演程度実施する。</p>																																																							

カ 組踊等沖縄伝統芸能公演

組踊、琉球舞踊、三線音楽、沖縄芝居等の鑑賞機会を提供するとともに、本土の芸能やアジア・太平洋地域の芸能などの公演を実施し、沖縄の伝統的な芸能の継承及び普及を図る。年間30公演程度実施する。

キ 演目の拡充

演目の拡充を図るため、優れた作品で上演が途絶えたものを復活して上演するための調査研究を行い、また新作の脚本について募集等を行う。

拡充					
----	--	--	--	--	--

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24
歌舞伎 決算額(百万円)	収入 860 支出 804	収入 827 支出 884	収入 835 支出 875	収入 848 支出 874	収入 899 支出 916
歌舞伎 従事人員数(人)	5	5	5	5	6
文楽 決算額(百万円)	収入 692 支出 618	収入 767 支出 625	収入 695 支出 624	収入 647 支出 629	収入 718 支出 633
文楽 従事人員数(人)	12	12	12	13	11
舞踊・邦楽ほか 決算額(百万円)	収入 83 支出 97	収入 73 支出 110	収入 68 支出 97	収入 79 支出 111	収入 94 支出 138
舞踊・邦楽ほか 従事人員数(人)	12	12	12	13	11
大衆芸能 決算額(百万円)	収入 99 支出 61	収入 106 支出 77	収入 92 支出 58	収入 89 支出 55	収入 94 支出 55
大衆芸能 従事人員数(人)	11	10	10	10	9
能楽 決算額(百万円)	収入 124 支出 106	収入 119 支出 99	収入 107 支出 88	収入 115 支出 99	収入 120 支出 94
能楽 従事人員数(人)	5	5	5	5	5
組踊等沖縄伝統芸能 決算額(百万円)	収入 29 支出 61	収入 30 支出 56	収入 32 支出 64	収入 35 支出 64	収入 40 支出 59
組踊等沖縄伝統芸能 従事人員数(人)	2	2	2	2	2
演目の拡充 決算額(百万円)	46	46	34	41	33

演目の拡充 従事人員数(人)	49	48	48	50	46
-------------------	----	----	----	----	----

- 1) 決算額は、
- ・振興会：各ジャンルの入場料収入及び公演費を計上。演目の拡充は、公演費のうち文芸費を計上している(再掲)
 - ・おきなわ財団：劇場入場料収入(財団自己財源)、公演費(財団自己財源)を計上している。
- 2) 従事人員数は、各館の制作担当常勤職員及び国立劇場おきなわ業務管理職員の人数を計上している。
- ・歌舞伎(第1制作課)
 - ・文楽(第2制作課、文楽劇場企画制作課企画制作係)
 - ・舞踊・邦楽ほか(第2制作課、文楽劇場企画制作係)
 - ・大衆芸能(演芸課、文楽劇場企画制作課企画制作係)
 - ・能楽(能楽堂企画制作課企画制作係)
 - ・組踊等沖縄伝統芸能(新国立劇場・おきなわ部管理課国立劇場おきなわ係)
 - ・演目の拡充(おきなわ係除く上記及び文芸課)
- その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

評価基準(年度計画及び評価の視点)	実績	分析・評価																																																																																																																																						
<p>2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演</p> <p>(1) 伝統芸能の公開</p> <p>ア 伝統芸能の保存振興を図るため、中期計画の方針に従い、平成24年度年度計画[別表1]のとおり主催公演を実施したか。</p> <p>イ 演目の拡充</p> <p>① 歌舞伎について、平成17年度に作成した「復活上演候補演目一覧」に基づき、上演候補台本準備稿の作成作業を進めるとともに、「復活上演候補演目一覧」の見直しを継続したか。</p> <p>② 歌舞伎の新作脚本募集について、平成23年度中に募集を行った作品の選考及び表彰を行うとともに、平成25年度の募集に向けての準備作業を進めたか。</p>	<p>1. 公演実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分野名</th> <th>公演数 劇場</th> <th>区分</th> <th>回数</th> <th>日数</th> <th>入場者数</th> <th>入場率</th> <th>総席数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">歌舞伎</td> <td rowspan="2">8公演 本館大劇場</td> <td>実績</td> <td>233回</td> <td>182日</td> <td>238,598人</td> <td>(67.6%)</td> <td>352,864人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>234回</td> <td>189日</td> <td>243,300人</td> <td>(68.4%)</td> <td>355,680人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">文楽</td> <td rowspan="2">10公演 本館小劇場、文楽劇場</td> <td>実績</td> <td>372回</td> <td>176日</td> <td>178,699人</td> <td>(72.9%)</td> <td>245,088人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>372回</td> <td>176日</td> <td>170,710人</td> <td>(69.7%)</td> <td>245,088人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">舞踊・邦楽・雅楽・ 声明・民俗芸能等</td> <td rowspan="2">22公演 本館大小劇場、文楽劇場</td> <td>実績</td> <td>37回</td> <td>27日</td> <td>20,594人</td> <td>(76.9%)</td> <td>26,783人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>37回</td> <td>27日</td> <td>20,940人</td> <td>(78.2%)</td> <td>26,793人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">舞踊</td> <td rowspan="2">5公演 本館大小劇場、文楽劇場</td> <td>実績</td> <td>11回</td> <td>7日</td> <td>6,239人</td> <td>(68.1%)</td> <td>9,156人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>11回</td> <td>7日</td> <td>6,470人</td> <td>(70.7%)</td> <td>9,156人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">邦楽</td> <td rowspan="2">6公演 本館小劇場、文楽劇場</td> <td>実績</td> <td>9回</td> <td>7日</td> <td>4,511人</td> <td>(82.4%)</td> <td>5,473人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>9回</td> <td>7日</td> <td>4,380人</td> <td>(80.0%)</td> <td>5,473人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">雅楽</td> <td rowspan="2">2公演 本館大小劇場</td> <td>実績</td> <td>2回</td> <td>2日</td> <td>1,653人</td> <td>(76.2%)</td> <td>2,170人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>2回</td> <td>2日</td> <td>2,000人</td> <td>(91.7%)</td> <td>2,180人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">声明</td> <td rowspan="2">1公演 本館小劇場</td> <td>実績</td> <td>2回</td> <td>1日</td> <td>824人</td> <td>(78.9%)</td> <td>1,044人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>2回</td> <td>1日</td> <td>900人</td> <td>(86.2%)</td> <td>1,044人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">民俗芸能</td> <td rowspan="2">2公演 本館小劇場</td> <td>実績</td> <td>4回</td> <td>2日</td> <td>2,112人</td> <td>(89.5%)</td> <td>2,360人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>4回</td> <td>2日</td> <td>1,850人</td> <td>(78.4%)</td> <td>2,360人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">琉球芸能</td> <td rowspan="2">1公演 本館小劇場</td> <td>実績</td> <td>3回</td> <td>3日</td> <td>1,677人</td> <td>(94.7%)</td> <td>1,770人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>3回</td> <td>3日</td> <td>1,590人</td> <td>(89.8%)</td> <td>1,770人</td> </tr> </tbody> </table>	分野名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	歌舞伎	8公演 本館大劇場	実績	233回	182日	238,598人	(67.6%)	352,864人	計画	234回	189日	243,300人	(68.4%)	355,680人	文楽	10公演 本館小劇場、文楽劇場	実績	372回	176日	178,699人	(72.9%)	245,088人	計画	372回	176日	170,710人	(69.7%)	245,088人	舞踊・邦楽・雅楽・ 声明・民俗芸能等	22公演 本館大小劇場、文楽劇場	実績	37回	27日	20,594人	(76.9%)	26,783人	計画	37回	27日	20,940人	(78.2%)	26,793人	舞踊	5公演 本館大小劇場、文楽劇場	実績	11回	7日	6,239人	(68.1%)	9,156人	計画	11回	7日	6,470人	(70.7%)	9,156人	邦楽	6公演 本館小劇場、文楽劇場	実績	9回	7日	4,511人	(82.4%)	5,473人	計画	9回	7日	4,380人	(80.0%)	5,473人	雅楽	2公演 本館大小劇場	実績	2回	2日	1,653人	(76.2%)	2,170人	計画	2回	2日	2,000人	(91.7%)	2,180人	声明	1公演 本館小劇場	実績	2回	1日	824人	(78.9%)	1,044人	計画	2回	1日	900人	(86.2%)	1,044人	民俗芸能	2公演 本館小劇場	実績	4回	2日	2,112人	(89.5%)	2,360人	計画	4回	2日	1,850人	(78.4%)	2,360人	琉球芸能	1公演 本館小劇場	実績	3回	3日	1,677人	(94.7%)	1,770人	計画	3回	3日	1,590人	(89.8%)	1,770人	<p>・伝統芸能の公開については、歌舞伎、舞踊、雅楽、声明、特別企画、能楽の入場者数は計画に対し未達であるものの、全体の入場者数は計画を上回っている。</p> <p>・内容的にも、古典伝承を踏まえ、維持と保存に努めている。</p> <p>・復曲、復活上演に取り組み、新作にも積極的な姿勢が見られるものの、復活上演については、復活に値する演目であるか否かを検証することも必要である。</p> <p>・今後は、歌舞伎公演に舞踊を加えるなど、本来あるべきエンターテインメント性の実現を期待したい。</p>
分野名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数																																																																																																																																	
歌舞伎	8公演 本館大劇場	実績	233回	182日	238,598人	(67.6%)	352,864人																																																																																																																																	
		計画	234回	189日	243,300人	(68.4%)	355,680人																																																																																																																																	
文楽	10公演 本館小劇場、文楽劇場	実績	372回	176日	178,699人	(72.9%)	245,088人																																																																																																																																	
		計画	372回	176日	170,710人	(69.7%)	245,088人																																																																																																																																	
舞踊・邦楽・雅楽・ 声明・民俗芸能等	22公演 本館大小劇場、文楽劇場	実績	37回	27日	20,594人	(76.9%)	26,783人																																																																																																																																	
		計画	37回	27日	20,940人	(78.2%)	26,793人																																																																																																																																	
舞踊	5公演 本館大小劇場、文楽劇場	実績	11回	7日	6,239人	(68.1%)	9,156人																																																																																																																																	
		計画	11回	7日	6,470人	(70.7%)	9,156人																																																																																																																																	
邦楽	6公演 本館小劇場、文楽劇場	実績	9回	7日	4,511人	(82.4%)	5,473人																																																																																																																																	
		計画	9回	7日	4,380人	(80.0%)	5,473人																																																																																																																																	
雅楽	2公演 本館大小劇場	実績	2回	2日	1,653人	(76.2%)	2,170人																																																																																																																																	
		計画	2回	2日	2,000人	(91.7%)	2,180人																																																																																																																																	
声明	1公演 本館小劇場	実績	2回	1日	824人	(78.9%)	1,044人																																																																																																																																	
		計画	2回	1日	900人	(86.2%)	1,044人																																																																																																																																	
民俗芸能	2公演 本館小劇場	実績	4回	2日	2,112人	(89.5%)	2,360人																																																																																																																																	
		計画	4回	2日	1,850人	(78.4%)	2,360人																																																																																																																																	
琉球芸能	1公演 本館小劇場	実績	3回	3日	1,677人	(94.7%)	1,770人																																																																																																																																	
		計画	3回	3日	1,590人	(89.8%)	1,770人																																																																																																																																	

- ③ 文楽について、復曲作品及び新作の上演を検討したか。また、レパートリーの拡充を図るため、廃絶演目の復曲等の上演準備作業を進めたか。
- ④ 大衆芸能の新作脚本募集について、「漫才」の募集、審査を行い、優秀な作品を表彰したか。優れた入賞作品は今後の公演において上演を検討したか。
- ⑤ 能楽について、室町時代の世阿弥の自筆本による能の復曲を行ったか。また、現行曲の演出を能の原点に立ち戻って見直し、その演出により上演を行ったか。
- ⑥ 組踊等沖縄伝統芸能について、新作組踊等の上演を行ったか。

[平成 24 年度年度計画別表 1 の概要]

(1) 伝統芸能の公開

- ① 歌舞伎 8 公演(本公演 6、鑑賞教室 2)
- ② 文楽 10 公演(本公演 8、鑑賞教室 2)
- ③ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等 22 公演
- ④ 大衆芸能 62 公演
- ⑤ 能楽 51 公演(定期公演 21、普及公演 11、企画公演 18、鑑賞教室 1)
- ⑥ 組踊等沖縄伝統芸能 30 公演(定期公演 20、企画公演 6、研究公演 1、普及公演 3)

特別企画	5 公演 本館大小劇場、文楽劇場	実績	6 回	5 日	3,578 人	(74.4%)	4,810 人
		計画	6 回	5 日	3,750 人	(78.0%)	4,810 人
大衆芸能	62 公演 演芸場、文楽劇場小ホール	実績	294 回	268 日	51,475 人	(60.6%)	84,987 人
		計画	292 回	268 日	49,520 人	(58.7%)	84,387 人
能楽	51 公演 能楽堂	実績	61 回	56 日	35,800 人	(93.6%)	38,247 人
		計画	61 回	56 日	36,143 人	(94.5%)	38,247 人
小計	153 公演	実績	997 回	709 日	525,166 人	(70.2%)	747,969 人
		計画	996 回	716 日	520,613 人	(69.4%)	750,195 人
組踊等沖縄伝統芸能	29 公演 国立劇場おきなわ大小劇場	実績	42 回	38 日	16,618 人	(70.3%)	23,647 人
		計画	44 回	40 日	15,854 人	(63.5%)	24,970 人
総合計	182 公演	実績	1,039 回	747 日	541,784 人	(70.2%)	771,616 人
		計画	1,040 回	756 日	536,467 人	(69.2%)	775,165 人

- 1) 3 月歌舞伎公演「隅田川花御所染」は、政府主催「東日本大震災二周年追悼式」開催のため、3 月 11 日(月)、12 日(火)の公演を中止した。
- 2) 国立劇場おきなわの 8 月組踊公演「姉妹敵討」は、台風 15 号接近の影響により全 2 回のうち 1 回を中止した。
- 3) 国立劇場おきなわ 9 月組踊公演「二童敵討」は、台風 17 号接近により全 1 回の公演を中止した。

2. 演目の拡充

(1) 復活上演候補演目の上演候補台本準備稿の作成作業

候補作品「塩原多助一代記」の準備稿を作成し、24 年 10 月歌舞伎公演で上演した。また、候補作品「春陽三獅頭」につき、復活上演候補作品調査検討委員会委員と準備稿の内容を検討し、「有職鎌倉山」と併せて復活上演用準備台本を作成した。さらに、委員より準備稿の進捗状況の報告や新規の候補作品に関する情報の提供を受けた。

(2) 歌舞伎の新作脚本募集

23 年度に受け付けた応募作品 213 篇の中から、佳作 2 篇と清栄会奨励賞 1 篇が選ばれた。佳作「上瑠璃」絵巻物語—岩佐又兵衛越前記—森真実、佳作「這上成功名怪我」山崎赤絵、清栄会奨励賞「花里亡者純真夢」吉井三奈子

(3) 文楽における復曲等の上演準備作業

・国立劇場文楽演目復曲事業の一環として、明治 12 年を最後に上演が途絶えている『釜淵双級巴』の「五右衛門内の段」「藤の森の段」「七条河原釜煎りの段」を三味線の朱(三味線の楽譜)をもとに復曲し、浄瑠璃演奏の録音作業を兼ねてあざくら会員を対象とする復曲試演会を実施した。(3 月 18 日、伝統芸能情報館レクチャー室、参加者 132 名(出演者関係者招待を含む)。応募者 374 名、当選者 150 名)

・文楽劇場では、夏休み文楽特別公演で新作「鈴の音」を上演した。また、研究公演「稀曲を聴く」を開催し、『大塔宮囃鏡』『身替音頭の段』(素浄瑠璃)を上演した。(8 月 30 日、文楽劇場小ホール、無料、参加者 149 名)

(4) 大衆芸能の新作脚本募集

【歌舞伎】

・歌舞伎公演は計画どおり実施され、意欲ある上演目と通し狂言の内容は、国立劇場らしい企画であった。

・しかしながら、復活通し狂言の演目において目標を大きく下回ったことにより、歌舞伎公演全体で達成度 89.7%の未達となっている。

・7月の歌舞伎鑑賞教室が計画比約11,000人増であったことにより、歌舞伎公演全体の入場者数を押し上げているので、未達の要因分析を行うことが必要である。

・東日本大震災復興支援のためのチャリティ—歌舞伎公演や被災者を招待した公演は評価したい。

【文楽】

・人間国宝陣をそろえた名作「仮名手本忠臣蔵」の上演、次代を担う芸芸員中心の「八陣守護城」の上演など、世代交代を視野に入れた芸芸承継の企画は評価できる。

・文楽劇場では、計画どおり実施されており、観客動員の改善が図られていることは評価できる。

・ただし、本館小劇場における入場者数が未達となるなど、入場率の高低が激しいことから、その要因分析を実施する必要がある。

24年度は「漫才・コント」部門の脚本を8月1日より募集開始し、8月31日に締め切った(応募総数249篇)。1月30日に選考会を開催し、優秀作1篇・佳作2篇、財団法人清栄会による奨励賞1篇が決定した。

優秀作「内緒のアルバイト」(コント)横井正幸
佳作「こんな子どもに育てて欲しい」(漫才)玉井一郎
佳作「思ひ出ぼろぼろ」(コント)蓮見国彦
清栄会奨励賞「301号室の幽霊」(コント)廣瀬大

(5) 能楽における復曲および演出の見直しによる上演

- ・4月特別企画公演 復曲能「阿古屋松」(復曲初演)
- ・5月企画公演 新演出「高砂」(能を再発見する一老体で見る高砂一)
- ・7月企画公演 復曲能「常陸帯」(平成23年復曲)
- ・11月狂言の会 復曲狂言「眉目吉」(昭和47年国立能楽堂定本復曲)
- ・11月狂言の会 復曲狂言「東西迷」(平成18年復曲)
- ・2月企画公演 新演出「卒都婆小町」(能を再発見する一憑依する少将一)

(6) 組踊等沖縄伝統芸能における新作組踊等の上演

- ・4月企画公演 新作組踊「十六夜朝顔」
- ・3月特別企画公演 新作組踊「聞得大君誕生」

【特記事項】

- ・4月歌舞伎公演の出演者により、被災地(名取市、多賀城市)でのチャリティー歌舞伎公演を実施した。
- ・東日本大震災復興支援の民俗芸能公演「東北の芸能」シリーズを開催した(24年6月「岩手」、25年2月「宮城」)。
- ・10月歌舞伎公演、3月歌舞伎公演において、東日本大震災により避難生活を余儀なくされている方々を中心に被災者を招待した。(来場者:10月歌舞伎279件655人、3月歌舞伎281件655人)

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

(本館)

- ・国立劇場開場45周年記念の掉尾を飾る4月歌舞伎公演では、昨年3月の東日本大震災のため8回で上演中止した「絵本合法衢」を再演した。10月歌舞伎公演「塩原多助一代記」を83年ぶりの通し上演で原作から「山口屋店先の場」を新たに加え、初春歌舞伎公演では原作の「樽太鼓鳴音吉原」を新たに補綴して娯楽作「夢市男達競」として再構成し、3月歌舞伎公演は「隅田川花御所染」を清新な若手の花形俳優たちを積極的に起用するなど、上演演目の拡充をはじめ、伝統芸能の伝承と普及に配慮した特色のある公演を実施した。
- ・5月舞踊公演での大作舞踊劇「菅原草紙」の復活、6月・2月民俗芸能公演の「東日本大震災復興支援」公演、3月琉球芸能公演の歌舞伎俳優主演による新作組踊の上演など、国立劇場ならではの公演を連続して開催し成果を上げることができた。

(演芸場)

- ・演芸場では例年通り定席公演、若手新人公演、企画公演を行った。企画公演では「歌声寄席」として演芸家と音楽家による寄席形式の公演や、文化庁芸術祭主催公演で「芸術祭寄席」を行い、三遊亭円丈の「かぶき噺」など企画性に富んだ公演のほか、女流演芸家による「女が語る」公演や、上方で成長している精鋭を集めた「上方若手演芸会」などの企画も多くの観客の支持を得ることが

【舞踊、邦楽、雅楽、声明、民俗芸能ほか】

・公演は計画どおり実施された。琉球芸能、民俗芸能では目標を上回る入場者数を記録したが、舞踊、雅楽、声明、特別企画において入場者数が未達となり、結果として、全体で未達となった。

・意欲的な企画の舞踊公演、安定した企画の「文楽素浄瑠璃の会」と雅楽公演、芸能史上の価値の高い「四天王寺の聖霊会」、「伎楽」などの多彩な企画は評価できる。

【大衆芸能】

・公演は計画どおり実施され、入場者数は、未達の公演も散見されるが、全体では目標を達成した。特に、文楽劇場において、ほぼ全ての公演で目標を達成し、全体で計画比13.9%増となったことは高く評価できる。

・国立ならではの人选と企画を評価したい。

・今後は、新人の発掘・育成、新作の募集など、将来を見据えた取組の継続的な実施が期待される。

【能楽】

・公演は計画どおり実施された。入場者数は、定例公演・企画公演で未達となり、全体では達成度99.1%でわずかに未達となっているものの、普及公演・能楽鑑賞教室で目標を達成し、5年連続入場率90%台を維持していることは評価できる。

できた。

(能楽堂)

- ・4月特別企画公演 復曲能「阿古屋松」(復曲初演)、企画公演「能を再発見する」シリーズ(5月「高砂」、2月「卒都婆小町」)のほか、10月月間特集「古事記千三百年にちなんで」、11月狂言の会「特集・大藏虎明没後三百五十年記念」の上演など、国立能楽堂独自の切り口での公演を行うことができた。

(文楽劇場)

- ・文楽公演は年間を通して概ね好調であった。特に夏休み文楽特別公演は新作「鈴の音」や近松の名作「曾根崎心中」が注目を集め、11月文楽公演は通し狂言「仮名手本忠臣蔵」が近年にない集客を記録した。また特別企画公演「萬福寺の梵唄」や大衆芸能各公演も好評で、計画を上回る入場者数となった。

(国立劇場おきなわ)

- ・琉舞鑑賞会、沖縄芝居、民俗芸能、本土の芸能、新作組踊等大入りの出る公演もあり、組踊等沖縄伝統芸能公演全体の入場者数について、年度計画の目標を達成することができた。また、昨年度に比べ組踊の入場者数が増加した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・一部の分野で、目標入場者数を達成することができなかった。企画構成、広報宣伝等について一層の検討を行い、集客増を図っていききたい。
- ・歌舞伎公演の入場者数に関し、10月、11月、12月及び3月公演は目標に大きく及ばなかった。10月は三遊亭円朝口演の人情噺、11月と3月は四世鶴屋南北円熟期の傑作、12月は義太夫狂言の名作であり、国立劇場の標榜する“復活通し狂言”という命題に合致する企画であり、また義太夫狂言として歌舞伎の大事なレパートリーである。今後も、企画内容、広報宣伝等について、制作と営業両部門が連携を密にして、入場者増のための効果的な施策について十分検討し、実行するよう努めていきたい。

2-(1)-① 歌舞伎

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4月歌舞伎公演 「通し狂言 絵本合法衛」	本館 大劇場	4/3(火) ~23(月)	実績	21回	21日	25,084人	(78.6%)	31,920人
			計画	21回	21日	20,500人	(64.2%)	31,920人
10月歌舞伎公演 「通し狂言 塩原多助一代記」		10/5(金) ~27(土)	実績	26回	23日	20,194人	(51.1%)	39,520人
			計画	25回	25日	24,250人	(63.8%)	38,000人
11月歌舞伎公演 「通し狂言 浮世柄比翼稲妻」		11/3(土) ~26(月)	実績	24回	24日	16,500人	(46.9%)	35,184人
			計画	24回	24日	21,650人	(59.3%)	36,480人
12月歌舞伎公演 「鬼一法眼三略巻」		12/2(日) ~25(火)	実績	24回	24日	20,177人	(55.3%)	36,480人
			計画	24回	24日	24,700人	(67.7%)	36,480人
1月歌舞伎公演 「夢市男達競」	1/3(木) ~27(日)	実績	25回	25日	26,790人	(70.5%)	38,000人	
		計画	25回	25日	25,500人	(67.1%)	38,000人	

・復曲能や新演出の上演、能楽あんない、対談など意欲的な企画による積極的な取組も評価できる。

【組踊等沖縄伝統芸能】

・公演は、台風による中止を除き、計画どおり実施された。

・全体としては目標を達成したが、入場率が5割に満たない公演が29公演中6件あったことから、公演時期などの要因分析の実施が必要である。

・創作舞踊、新作組踊、社会人のための組踊鑑賞教室など将来を見据えた地道な取組や、復帰世代の舞踊家の登用など、次代をにらんだ企画が窺える点は評価できる。

【演目の充実】

・歌舞伎、文楽、大衆芸能、沖縄伝統芸能など、いずれの分野でも復活、復曲などに積極的に取り組んでいることは評価できる。

・しかしながら、歌舞伎の「復活通し狂言」の入場者数が目標を大きく下回っていることから、演目の選定の妥当性についての検証が必要である。

3月歌舞伎公演 「通し狂言 隅田川花御所染」		3/5 (火) ~26 (火)	実績	23回	20日	14,849人	(42.5%)	34,960人
			計画	25回	25日	21,200人	(55.8%)	38,000人
【歌舞伎公演 小計】 6公演 (計画: 6公演)			実績	143回	137日	123,594人	(57.2%)	216,064人
			計画	144回	144日	137,800人	(63.0%)	218,880人
6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、 「平家女護島 俊寛」	本館 大劇場	6/2 (土) ~24 (日)	実績	46回	23日	49,927人	(71.4%)	69,920人
			計画	46回	23日	51,500人	(73.7%)	69,920人
7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、 「歌舞伎十八番の内 毛抜」	大劇場	7/3 (火) ~24 (火)	実績	44回	22日	65,077人	(97.3%)	66,880人
			計画	44回	22日	54,000人	(80.7%)	66,880人
【歌舞伎鑑賞教室 小計】 2公演 (計画: 2公演)			実績	90回	45日	115,004人	(84.1%)	136,800人
			計画	90回	45日	105,500人	(77.1%)	136,800人
【歌舞伎 合計】 8公演 (計画: 8公演)			実績	233回	182日	238,598人	(67.6%)	352,864人
			計画	234回	189日	243,300人	(68.4%)	355,680人

※ 3月歌舞伎公演「隅田川花御所染」は、政府主催「東日本大震災二周年追悼式」開催のため、3月11日(月)、12日(火)の公演を中止した。

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への記者会見及び取材依頼、テレビ出演、ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、振興会ニュース等により、また都内の比較的小規模な劇場におけるチラシ設置など公演情報の周知範囲拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 4月公演は、昨年10月公演からはじまった45周年記念公演関連の広報を行った。また、45周年記念最後の公演であったため、締めくくりと被災地でのチャリティー公演の発表を兼ねた記者会見を行った。また、宮城県名取市及び多賀城市でのチャリティー公演においては、取材対応のほか観客誘導等を行い、関係部署と連携して公演の成功に努めた。
- ・ 10月公演は、多助役の坂東三津五郎が、塩原太助の墓(足立区:東陽寺)にて成功祈願及び会見を行った。また、太助の子孫との取材も行った。
- ・ 11月公演及び12月公演は、記者会見等を行い周知に努めた。
- ・ 1月公演は、初日前日にマスコミ各社に舞台稽古を公開。舞台上で出演者がインタビューに応じた。
初日(3日)に出演者・理事長による鏡開きを行い、3日から7日はロビーにて獅子舞、3日から27日は相撲協会関連のロビー展示を設け、初春公演らしい雰囲気盛り上げた。
また、海外旅行者で賑わう羽田空港国際線到着ロビーに、日本⇒歌舞伎⇒国立劇場⇒初春歌舞伎公演と連想してイメージさせる柱巻広告を掲出した。
- ・ 3月公演は、記者会見、公開舞台稽古、イベントの撮影会の取材等を行い周知に努めた。また、出演の中村福助、中村隼人がテレビにゲスト出演し、大きな波及効果が見られた。
- ・ 団体の集客については、今後の新規観劇見込み団体を含む顧客情報を整備・共有することによって、営業活動の効率化を図るとともに、複数の担当でフォローする等適宜人員を配置し、顧客のニーズに対応した。
- ・ 各公演で実施した「ゆかりの地キャンペーン」では、顧客であるご当地のPRを劇場ロビーにおいて行う等公演全体を盛り上げると同時に団体観劇の誘致にも成功した。
- ・ 企業OB会、大手企業系列の旅行代理店(インハウスエージェント)、専門学校等を主たるタ

- ターゲットに設定した営業活動を展開し、ダイレクトメール等をそれぞれの業種に合わせて作成するなど公演の魅力をよりの確に伝えられるように努めた。
- 外国人観光客への情報発信・公演周知活動では、JTB 関連会社が企画・運営する外国人観光客向けホームページを通じて販売実績を伸ばしている。
- 中国語（簡体字・繁体字）・韓国語のパンフレットを作成し、欧米以外の外国人観光客への情報発信・公演周知活動の足掛かりとした。
- 円朝まつり（8月5日）、巢鴨とげめき地蔵尊前（11月2日）、三囲神社前（1月4日）で、それぞれ10月、11月、初春・3月歌舞伎公演のPRのため公演チラシを配布する等、ターゲットを限定した個人客向けの営業活動も必要に応じて行った。
- 理事長主導の下、職員全員参加による「おすすめキャンペーン」を展開し、特に3月歌舞伎公演においては集中的な案内・周知を行った結果、合計1,260枚の販売があった。

3. 外部専門家等の意見

- 4月公演について、昨年3月、公演中に東日本大震災が発生し、やむなく中止せざるを得なくなった公演の再上演であるが、ほぼ前回同様の座組で再度の上演を実現した制作関係者の努力を称えたい。昨年の内容に新たな工夫を施し、ほぼ同じ配役で上演できたことで、本作の今後のよりよい舞台の可能性が出てきた。開場記念企画の最後であるが、今後とも同様な力のこもった企画、公演を期待する。
- 10月公演について、時代物と違って元は円朝の落語で、「青の別れ」で年配者には親しまれた作品を通して取り上げたのは、特に若年層の歌舞伎離れが課題の昨今、大ヒットの企画といていい。字幕が欲しい難解な浄瑠璃や台詞もなく、日本人にはお馴染みの塩原多助の人間像を描き出したのはよかった。道行などの所作事や華やかな幕があるわけではなく、全幕を通して同じような色調の場面が続くため、物理的な時間以上に上演時間が長く感じられる。場面によっては世話物らしい軽快なテンポで進め、また場面によっては演者の工夫によって芝居を作り込んでいくなど、メリハリをはっきりさせれば、さらに興味が生まれるものと思われる。
- 11月公演について、通常みどり狂言としてよく上演される「鈴ヶ森」「鞆当」、さらにそれに準ずる「山三浪宅」というお馴染みの場面に加えての事件の発端をわかりやすく前半にまとめた「浮世柄比翼稲妻」の通し上演は、まさに芝居見物としてこの作品を観客ひとりひとりに楽しめる内容となりました。市川染五郎の怪我による休演は残念なことであったが、名古屋山三の中村錦之助と白井権八の市川高麗蔵が期待に応じて健闘し、公演の質を保った。染五郎の一人二役が別の俳優に振り分けられたことにより、山三と権八の関係をきちんと示すことができ、芝居全体のつながりが把握しやすくなった。
- 12月公演について、序幕として清盛館の場を久々に上演したことによって、後に続く菊畑の場における鬼一法眼の立場とその苦悩がよく理解できるようになった。通し狂言の上演を指針に掲げる国立劇場にふさわしい上演方法である。一方、奥庭の場が上演されなかったことは、鬼一という人物の謎も解けず、菊畑の場における話の展開が完結しないため、上記の上演方針にかんがみて残念なことであった。「檜垣茶屋」「大蔵館」は、たびたびの上演があるが、各役に演者の個性、演技の相違が見られ、その点でも面白い。
- 初春公演について、珍しい演目を掘り起こしての上演は国立劇場ならではの意義ある仕事であり、複雑なストーリーを整理し、演出上の工夫を凝らしたスタッフの努力を称えたい。通し狂言の形を取っているのでも、内容は分かりやすく、これはこれで楽しめた。やはり通し狂言の上演が可能なのは、当劇場の一つの強みである。全体的に女形の活躍が印象に残ったが、力士と新造を兼ねさせたのは、あまり無理にも見えず面白かった。こんな点からでも、

歌舞伎に馴染みのない客が、歌舞伎に興味を持てればよいと思う。五幕目の台所は、竈等を大きくし、鼠の採りものを野菜や台所用品にしたところが目新しく、鳴物も効果的に使われていた。ただし、大詰の大鼠の仕掛けは、これまでの似たような場面と変わり映えがしない。今後も類似の場が出されるのなら、もう一工夫が必要であろう。

- ・ 3月公演について、出演者の層が厚いとは言えない残念な座組であったが、普段大きな役に恵まれない若手が意欲を見せて予想外の成果を挙げた。興行的には苦戦したことと推察するが、図らずも若手に勉強の場を与え、また日ごろの精進の成果を確認することのできる絶好の機会となったことは意味があった。歌舞伎座の柿落とし、また物故俳優が続き、いずれ世代交代、襲名等、松竹系は話題が豊富で観客も賑わうであろう。その時期に当劇場なりの魅力をどう出してゆくのか。松竹系と対抗ではなく、歌舞伎を担う両輪としてともにあらねばならない。上演が近年少なくなった作品の復活・新たな物の研究的公演等は当劇場の重要な使命である。
- ・ 6月歌舞伎鑑賞教室について、解説に歌舞伎俳優研修生を登場させ、若い観客にとって歌舞伎俳優が身近な存在であることを感じさせたのは良かった。親しみやすい人物画を投影してストーリーを丁寧に説明していたのはわかりやすく、本編へのスムーズな導入になっていたと思う。芝喜松、芝のぶ等の研修生出身が活躍した。真の実力をつけてきた研修出身者をこういう機会に主な役にベテランとともに起用することで、彼らがワキを演じる時のよい参考になり、世間の人に研修生の存在もアピール出来る。
- ・ 7月歌舞伎鑑賞教室について、解説「歌舞伎のみかた」は、今回もよく作り込まれた丁寧な解説で、初めての観客にも受け入れやすいものになっていたと思う。ことに化粧をしている姿を大きなスクリーンに映し出し、細かい部分まで見せるようにしたのは絶大なる効果もたらされた。「毛抜」は、ベテラン、中堅がいつもより多く出演したようだ。彼らと若手の競演だが、観劇初心者は、意外と両者の違いを感じとることがある。今回もごく僅かでもその味の違いを知った者がいたことを願う。若手もこういう機会を活かして大いに成長して欲しい。

4. アンケート調査

全8公演で実施(8回)した。

回答数5,632人(配布数7,770人、回収率72.5%)。回答者の84.0%が概ね満足と答えた(4,730人)。

【特記事項】

- ・ 国立劇開場45周年記念公演(4月公演)
- ・ 4月歌舞伎公演の出演者により、被災地でのチャリティー歌舞伎公演を実施(名取市、多賀城市)
- ・ 平成24年度(第67回)文化庁芸術祭主催公演(10月公演)
- ・ 平成24年度(第67回)文化庁芸術祭協賛公演(11月公演)
- ・ 字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章を表示し、鑑賞の助けとした。(6月歌舞伎鑑賞教室)
- ・ 政府主催「東日本大震災二周年追悼式」開催のため、3月11日(月)、12日(火)を中止とした。(3月歌舞伎公演)

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

本公演：実績123,594人／目標137,800人(達成度89.7%)

鑑賞教室：実績 115,004 人／目標 105,500 人（達成度 109.0%）

合計：実績 238,598 人／目標 243,300 人（達成度 98.1%）

2-(1)-② 文楽

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	
5 月文楽公演 「八陣守護城」「契情倭莊子」/「傾城反魂香」「艶容女舞衣」「壇浦兜軍記」	本館 小劇場	5/12（土） ～28（月）	実績	34 回	17 日	16,277 人	(85.5%)	19,040 人	
			計画	34 回	17 日	16,500 人	(86.7%)	19,040 人	
9 月文楽公演 「糸仙人吉野花王」「夏祭浪花鑑」/「傾城阿波の鳴門」「冥途の飛脚」		9/8（土）～ 24（月）	実績	34 回	17 日	18,054 人	(94.8%)	19,040 人	
			計画	34 回	17 日	17,000 人	(89.3%)	19,040 人	
12 月文楽公演 「苅萱桑門筑紫鞆」「傾城恋飛脚」		12/4（火） ～16（日）	実績	13 回	13 日	6,770 人	(93.0%)	7,280 人	
			計画	13 回	13 日	6,500 人	(89.3%)	7,280 人	
2 月文楽公演 「摂州合邦辻」「小鍛冶」「曲輪ぶんしょう」「関取千両幟」「妹背山婦女庭訓」		2/9（土）～ 25（月）	実績	51 回	17 日	20,874 人	(73.1%)	28,560 人	
			計画	51 回	17 日	24,570 人	(86.0%)	28,560 人	
【本館・文楽公演 小計】 4 公演（計画：4 公演）			実績	132 回	64 日	61,975 人	(83.8%)	73,920 人	
			計画	132 回	64 日	64,570 人	(87.4%)	73,920 人	
12 月文楽鑑賞教室「靱猿」「解説文楽の魅力」「恋女房染分手綱」	本館 小劇場	12/4（火） ～16（日）	実績	24 回	13 日	12,933 人	(97.4%)	13,272 人	
			計画	24 回	13 日	13,140 人	(99.0%)	13,272 人	
【文楽（本館） 合計】 5 公演（計画：5 公演）			実績	156 回	77 日	74,908 人	(85.9%)	87,192 人	
			計画	156 回	77 日	77,710 人	(89.1%)	87,192 人	
4 月文楽公演 「加賀見山旧錦絵」/「祇園祭礼信仰記」・「桂川連理柵」	文楽 劇場	4/7（土）～ 30（月・祝）	実績	46 回	23 日	15,652 人	(46.5%)	33,626 人	
			計画	46 回	23 日	17,500 人	(52.0%)	33,626 人	
夏休み文楽特別公演 「鈴の音」「文楽ってなあに」「西遊記」/「摂州合邦辻」「伊勢音頭恋寝刃」「契情倭莊子」/「曾根崎心中」		7/21（土）～ 8/7（火）	実績	54 回	18 日	25,508 人	(64.6%)	39,474 人	
			計画	54 回	18 日	20,000 人	(50.7%)	39,474 人	
11 月文楽公演 通し狂言 「仮名手本忠臣蔵」		11/3（土・祝）～ 25（日）	実績	44 回	22 日	24,167 人	(75.1%)	32,164 人	
			計画	44 回	22 日	17,500 人	(54.4%)	32,164 人	
初春文楽公演 「寿式三番叟」「義経千本桜」「増補大江山」/「団子売」「ひらかな盛衰記」「本朝廿四孝」		1/3（木）～ 25（金）	実績	44 回	22 日	21,141 人	(65.7%)	32,164 人	
			計画	44 回	22 日	20,000 人	(62.2%)	32,164 人	
【文楽劇場・文楽 小計】 4 公演（計画：4 公演）			実績	188 回	85 日	86,468 人	(62.9%)	137,428 人	
			計画	188 回	85 日	75,000 人	(54.6%)	137,428 人	
6 月文楽鑑賞教室「伊達娘恋緋鹿子」、解説「菅原伝授手習鑑」	文楽 劇場	6/8（金）～ 21（木）	実績	28 回	14 日	17,323 人	(84.6%)	20,468 人	
			計画	28 回	14 日	18,000 人	(87.9%)	20,468 人	

【文楽（文楽劇場） 合計】 5公演（計画：5公演）	実績	216回	99日	103,791人	(65.7%)	157,896人
	計画	216回	99日	93,000人	(58.9%)	157,896人
【文楽 総合計】 10公演（計画：10公演）	実績	372回	176日	178,699人	(72.9%)	245,088人
	計画	372回	176日	170,710人	(69.7%)	245,088人

2. 営業・広報

（本館）

- ・ マスコミ各社への記者会見及び取材依頼、テレビ出演、ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、振興会ニュース等により、また都内の比較的小規模な劇場におけるちらし設置など公演情報の周知範囲拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 5月公演では、「八陣守護城」の関連で、出演者の豊竹咲大夫、鶴澤燕三、吉田玉女とともに港区白金台の覚林寺にて成功祈願及び会見を行った。
- ・ 9月公演は、8月に渋谷パルコ劇場で上演されていた三谷文楽「其礼成心中」において、観客に配布するチラシの挟み込みを行い周知に努めた。
- ・ 団体の集客については、今後の新規観劇見込み団体を含む顧客情報を整備・共有することによって、営業活動の効率化を図るとともに、複数の担当でフォローする等適宜人員を配置し、顧客のニーズに対応した。
- ・ 5月文楽公演において、第2部「八陣守護城」にちなみ、加藤清正にゆかりのある清正公覚林寺檀信徒への団体観劇誘致を行うとともに、5月5日の清正公大祭当日、出演者の成功祈願と割引チラシ（約3,500枚）の配布を行った。
- ・ 中国語（簡体字・繁体字）・韓国語のパンフレットを作成し、欧米以外の外国人観光客への情報発信・公演周知活動の足掛かりとした。

（文楽劇場）

- ・ 大阪市内各所（JR大阪駅、地下鉄心斎橋駅、阪急百貨店）で、芸員もボランティアで参加する公演PRを、文楽協会と協力して行った。
- ・ 11月と正月の文楽公演については、大阪市営地下鉄の協力により、公演の大型ポスターの駅貼りや車両内中吊り広告が無料で掲出された。
- ・ 試験的にラジオCMをスポットで実施するとともに、視聴者プレゼントを組み合わせた公演紹介の放送を在阪ラジオ局に働きかけた。
- ・ 各公演演目のゆかりの地に関係の深い寺社や観光協会、地元企業とタイアップし、集客活動を行った。
- ・ 地元で行われる祭礼行事などに参加し、広く一般への普及活動を行った。
- ・ 大阪市との協力による「親子ペア文楽鑑賞優待事業」を実施し、参加対象者に対して文楽の楽しさをアピールする広報活動を展開することにより集客の増大を図った。
- ・ 6月文楽鑑賞教室における、大阪市及び文楽協会との連携による「青少年のための文楽鑑賞教室」事業には大阪市立の小、中、高校が多数参加し、文楽に対する親近感及び知識の向上を図ることができた。

3. 外部専門家等の意見

（本館）

- ・ 5月文楽について、第1部の『八陣守護城』では、現時点において上演可能な全ての段（毒酒・浪花入江・主税之介早討・正清本城）を取り上げており、その企画は高く評価できる。重要無形文化財保持者の年齢や健康問題などの様々な要因によって、昼夜での通し狂言を出

しにくい状況が文楽では続いている。それだけに、第1部か第2部のどちらかで、物語として完結性のある狂言（複数の段で一つの芝居となるような作品）を取り上げる今回のような努力は、とても意義のあることだと思う。加えて『八陣守護城』は、東京での上演が昭和54年9月以来、大阪も「毒酒」に関しては平成4年7月以来となる。技芸の伝承という観点からも意義深い興行であった。

- ・ 9月公演について、『糸仙人吉野花王』は久しぶりの演目（平成3年5月以来）、『傾城阿波の鳴門』も本興行では取り上げられることの少ない演目。第1部・第2部ともに単なる有名狂言の取り合わせではない点は評価できる。『糸仙人吉野花王』は、作品の良し悪しを論じれば、問題がないとは言いがたい。しかしながら、現代の我々が現代の感性で作柄の良し悪しを云々し上演の必要性を論ずるよりも、伝承を途絶えさせない努力の方がはるかに重要であり、その点に関しては何ら疑問の余地はない。上演が間遠になってしまった作品はまだまだある。様々な理由で、昼夜の通し狂言は企画しにくいのであろう。その状況を大いに利用して、見取り公演であっても、安易に人気狂言に偏らず、知名度の低い作品を演目に加えることに、今後とも積極的であってほしい。
- ・ 12月公演について、『苧萱桑門筑紫轢』は、起伏にとんだ筋をもつ「守宮酒の段」と、昭和32年以来55年振りの上演という「高野山の段」の組み合わせ。見所、聴きどころの多い「守宮酒の段」だが、物語の終結部を続けて見ることで、より大きな物語の中に位置付けて見ることができた。「高野山の段」が久しぶりに上演されたことは大変喜ばしい。また、『傾城恋飛脚』「新口村の段」では、幕切れの孫右衛門（玉也）の演出が見慣れた型とは違っており、興味深かった。単に人気のある演物を取り上げただけではないのだという、その意欲は評価できる。
- ・ 2月公演について、2月の文楽公演は三部制であるが、どの部もその特徴をうまく活かし、第1部と第3部はひとつの物語をじっくりと見せ、第2部では文楽の多様性を楽しむことができた。文楽ファンには三部制は時間が短くて物足りない感じがあるかもしれないが、見慣れていない人にとっては、休憩をはさんで上演時間が2時間半というのは程良い長さであろう。12月の文楽鑑賞教室をきっかけに2月の文楽公演に足を運んでもらえるような仕掛けができれば、新しい観客層の獲得に繋がるのではないかと感じた。ただし第三部の開演が6時という時間設定では、平日に一般の勤め人が観るのは難しい。様々な事情があるとは思いますが、新しい観客層の開拓という視点からはもう少し遅い開演時間がのぞまれる。

（文楽劇場）

- ・ 「加賀見山旧錦絵」又助住家の段は珍しかったが、現代人の目には、お家のために、幼い子供も含めた一つの家族が同時に死へと向かうありさまが、あまりにも悲愴で理不尽に見えないかという危惧も覚えた。「草履打」以降は、社会の中で様々な思いを抱えて働いている現代の女性たちも、敵を討つために一人で立ち上がるお初の姿にカタルシスを感じるのだろう、客席から大きな拍手がわいた。「長局」で復帰した竹本源大夫師が尾上を勤められたことも喜びたい。技芸員の演技、演目は充実しており、文楽の魅力を伝えることができていたように思うが、観客の動員数に不安を感じさせた。
- ・ 6月文楽鑑賞教室は、四班がそれぞれに同じ演目を演じるという配役が、演技の比較を可能にしており、固定客にも一定の評価を得ている。今回は技芸員による人形解説の場面で、舞台のスクリーンに人形の姿や構造の写真が大きく映し出された。後方席の観客も話の内容がより理解しやすくなって、大変よかったと思う。ただ、映し出されたのがすべて静止画だったので、舞台上の人形遣いの動きと人形の表情がリアルタイムの動画となって大写しになれば一層いいのでは、とも感じた。「社会人のための文楽入門」の客席には、ワイシャツ姿のサ

ラリーマンや、学生、外国人の姿も多く見られ、夜の鑑賞教室が一般に知られるようになってきているように思われた。

- ・ 「鈴の音」は、小品ながらほのぼのとした雰囲気があり、現代の子供たちの感性にアピールする表現があちこちに見られた点で興味深かった。「解説」では、人形遣い体験で子供達に黒衣を着せた趣向が効果的。「西遊記」は親子劇場では何度も上演されている人気作だが、幕開きで劇場の壁面に孫悟空のイラストが映し出されるなど、子供たちの期待感を盛り上げる工夫がなされていた。「伊勢音頭恋寝刃」で住大夫師が休演となったのは何とも残念。だが、その休演を懸命に埋めようとつとめる技芸員たちに対する観客の拍手は、とても温かかった。「曾根崎心中」は、尻上がりに観客が増え、後半は大入り満員だった。舞台内容の充実はもちろんだが、文楽が様々な形でメディアに取り上げられていることもプラスに働き、観客増加につながったのだろう。思い切って演目、段毎に、それぞれ特色を出そうという企画・制作の意図（年功序列による平凡な配役でなく）を強く感じる。
- ・ 11月公演は、「仮名手本忠臣蔵」の通しであった。昼夜ともに好調で、土日、最終週などほぼ満席の状態であり、補助金問題とともに報道されたためか、文楽に対する関心が高まった結果であろうか。今回は、大夫、三味線、人形遣いそれぞれに力を付けてきていることが、忠臣蔵という定番であればこそ実感することができる公演となった。満席の客席の拍手がどれほど技芸員の力を引き出していくものであるかを、強く感じさせる公演でもあった。人間国宝をはじめベテラン陣を中心にやや休演が目立ったものの、若手・中堅がきちんとカバーした。全体として「全員野球」「総力戦」といった雰囲気が客席に伝わったのもよかった。一座全員が心をつなげて取り組むという意味でも、この作品を数年に一度上演することには大きな意義があることが納得できた。
- ・ 「寿式三番叟」、この祝儀曲での竹本住大夫の復帰が、大きな慶事であり、初春のめでたさを倍増させた。住大夫の語りが格調高く、声もしっかりと出ていて、半年間のブランクを感じさせなかったのも嬉しい限り。初春は例年、見取り狂言の公演となるが、じっくりと「すしや」で人間ドラマを見せた後、気分を発散させる「増補大江山」へとつながる展開は良かった。「本朝廿四孝」の八重垣姫を、叢助は実に生き生きと可憐に表現する。「奥庭狐火」では八重垣姫は勘十郎に変わり、左も足も出遣いとなるが、手に入った動きで、早替りをはじめ見どころが続く。全体に、著名な時代物の名場面と景事などがバランスよく配置され、楽しく見ることのできる初春らしい公演であった。

4. アンケート調査

- ・ 9月公演(本館小劇場)、12月文楽鑑賞教室(本館小劇場)で実施(2回)。
回答数 712人(配布数 1,077人、回収率 66.1%)。回答者の 84.7%が概ね満足と答えた(603人)。
- ・ 6月文楽鑑賞教室(文楽劇場)、夏休み文楽特別公演(文楽劇場)、11月文楽公演(文楽劇場)で実施(3回)。
回答数 946人(配布数 1,414人、回収率 66.9%)。回答者の 91.5%が概ね満足と答えた(866人)。

【特記事項】

- ・ 地下鉄駅構内での文楽紹介イベント「メトロ文楽」は、24年度は永田町駅改修工事のため、休止した。
- ・ 各公演とも字幕表示装置により、演奏に合わせて義太夫の詞章を表示し鑑賞の助けとした。
- ・ 平成24年度(第67回)文化庁芸術祭主催(文楽劇場11月文楽公演)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場の全公演)
- ・ 大阪文化祭参加(文楽劇場6月文楽鑑賞教室)

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

本公演：実績 148,443 人／目標 139,570 人（達成度 106.4%）

鑑賞教室：実績 30,256 人／目標 31,140 人（達成度 97.2%）

合計：実績 178,699 人／目標 170,710 人（達成度 104.7%）

2-(1)-③ 短期公演(舞踊、邦楽、雅楽、声明、民俗芸能、琉球芸能、特別企画)

1. 公演実績

公演名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
【舞踊】	5 公演 本館大小劇場・文楽劇場	実績	11 回	7 日	6,239 人	(68.1%)	9,156 人
		計画	11 回	7 日	6,470 人	(70.7%)	9,156 人
【邦楽】	6 公演 本館小劇場・文楽劇場	実績	9 回	7 日	4,511 人	(82.4%)	5,473 人
		計画	9 回	7 日	4,380 人	(80.0%)	5,473 人
【雅楽】	2 公演 本館大小劇場	実績	2 回	2 日	1,653 人	(76.2%)	2,170 人
		計画	2 回	2 日	2,000 人	(91.7%)	2,180 人
【声明】	1 公演 本館小劇場	実績	2 回	1 日	824 人	(78.9%)	1,044 人
		計画	2 回	1 日	900 人	(86.2%)	1,044 人
【民俗芸能】	2 公演 本館小劇場	実績	4 回	2 日	2,112 人	(89.5%)	2,360 人
		計画	4 回	2 日	1,850 人	(78.4%)	2,360 人
【琉球芸能】	1 公演 本館小劇場	実績	3 回	3 日	1,677 人	(94.7%)	1,770 人
		計画	3 回	3 日	1,590 人	(89.8%)	1,770 人
【特別企画】	5 公演 本館大小劇場・文楽劇場	実績	6 回	5 日	3,578 人	(74.4%)	4,810 人
		計画	6 回	5 日	3,750 人	(78.0%)	4,810 人
【合計】	22 公演	実績	37 回	27 日	20,594 人	(76.9%)	26,783 人
		計画	37 回	27 日	20,940 人	(78.2%)	26,793 人

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への記者会見及び取材依頼、テレビ出演、ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、国立文楽劇場友の会会報、振興会ニュース等により、また都内の比較的小規模な劇場におけるチラシ設置など公演情報の周知範囲拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 3月琉球芸能公演に関しては、歌舞伎俳優の坂東玉三郎が出演することもあり、記者会見、スチール撮影、公開稽古など、歌舞伎公演と同様の広報を行った。

3. 外部専門家等の意見

(本館)

- ・ 舞踊公演について、5月「舞踊菅原草紙」は、舞踊界の活性化・刺激、多角的な舞踊公演の創造、問題提起となったのだろう。8月「花形名作舞踊鑑賞会」では、「舌出し三番叟」「神楽娘」「蚤取り男」の演目は楽しく夏らしい企画だった。花形舞踊家にとっても普段は中々手掛けられないような曲が並んでおり、観客にとっても御馳走とっていい。ただ、重量感たっぷりて実力が追いつかず、もたれ気味の感がするものもあった。11月「舞の会」は、今回

も新人の登用は喜ぶたいが、かつての名手や現在のベテランの隙間を伺うような成果という
と疑問符が付く。穴は埋められていない印象だ。息の長い取組を望みたい。3月「素踊りの会」
は、初日に今、勢いのある花柳基を入れたのだから、各流のスター級を2日間でもう1組で
も加えたら全体の印象が違ってくる。素踊りの会の集客に当たっては思い切った手法が今後は
求められると思う。

- ・ 邦楽公演について、6月公演「掛合の美」では、種目別ではなく、多種目を「掛合」とい
う視点から横断的に紹介した点に新鮮味があった。7月公演「親子で楽しむ日本の音」は、タ
イトルどおりの観客層にアピールできる内容で、藤原道山師のわかりやすく聞きやすい解説
は、彼の知名度以上に観客を惹きつけていた。同「名曲で知る邦楽の世界」は、《六段の調》
《三千歳》《蘭蝶》《京鹿子娘道成寺》という王道の名曲を、第一線で活躍中の演奏者によっ
て提供する企画であった。体験コーナーは、参加している人たちは非常に熱心で、このコー
ナーの役割は小さくないと思う。

- ・ 10月公演「琵琶の会」は、各流派の演奏者を集めて紹介するというオーソドックスな企
画も、若手の起用を視野に入れた人選も、目指すところは納得のできるものであった。国立
劇場ならではの企画力によって実現した公演と言える。10月公演「文楽素浄瑠璃の会」は、
人気のある名曲2作と復曲1作はそれぞれ性格が違い、組み合わせには工夫が感じられた。1
月公演「長唄の会」のプログラムは、唄と三味線の演奏、鳴り物入りの演奏、男性・女性陣
の演奏を上手く取り混ぜており、曲順も含めて、とても良かった「三曲の会」は満席ではな
いものの、かなりの客を集め、定着した公演としての人気の高さが示された。今後につい
ては、何か企画性のあるテーマでプログラムを組むこともできるのではないかと思った。

- ・ 雅楽・声明公演については、9月雅楽は、昭和44年以来久々の上演で、省略を最低限に
抑え、聖霊会の華やかな全体像を分かりやすく紹介するという姿勢が見てとれ、東京で居な
がらにして聖霊会を楽しむことを体現した公演であった。複雑な進行からなる次第が、字幕
とプログラムで分かりやすく示されていたように思う。11月声明は、全員の僧侶が声明の細
かな装飾音に至るまで、丁寧に揃って唱和され、雅楽と相和し、まさに極楽浄土はさもあら
ん、と思わずにはいられなかった。6月特別企画、9月雅楽公演とともにいずれも仏教音楽と
舞楽との協働によるもので、聴衆にとっても見応え聴き応えのある公演であった。また雅楽
と仏教行事との深い関わりを伝え、関西の人々に親しまれている仏教行事の様子を関東の
人々に伝える上でも非常に有意義であった。

- ・ 民俗芸能公演では、6月公演はそれぞれ上演に先立って地域の被災状況と芸能伝承に対す
る取組、上演芸能の内容等についての説明がなされた。今回公演された虎舞、剣舞、しし踊
り、神楽は、岩手県の北上山地から三陸沿岸地域の代表的な民俗芸能であり、限られた日程
の中での公演芸能の選択としては適切だったといえる。震災復興支援という目的に加え、印
刷物の解説によって、この地方の主な民俗芸能を知る機会にもなったといえよう。2月公演で
は、宮城県内に伝わる数種の民俗芸能を上演することによって、多様な、しかも長い歴史の
中で庶民によって育まれてきた芸能が存在することが理解されたといえる。今回、雄勝法印
神楽が上演した「鉤弓」は、実に60年ぶりの実演ということで、この国立劇場への出演が、
震災からの再起だけでなく、失われつつあった演目の再生にも一役かったことになると言
えるだろうか。

- ・ 琉球芸能公演では、琉球芸能公演は今回で16回目を迎えるが、沖縄の若手の演者に、歌
舞伎俳優の坂東玉三郎を迎えての公演であり、今回の琉球芸能公演の持つ意義が大きいこ
とは衆目の一致するところであろう。組踊そのものが、かつて玉城朝薫がヤマトの芸能を取り
込みながら組み立てたことを考えるなら、こうした試みがあっても当然と思われるが、初め

て歌舞伎俳優が主役を演ずるという今回の公演については、関係各位の熱意と努力があって実現でき、その成功に祝意を表したい。

・ 特別企画公演では、6月「伎楽」は、再現された伎楽はもとよりかつての姿そのままではないが、天理大学の伎楽はすでに30年に及ぶ歴史を有しているので、これ自体がすでに新たな伝統になりつつあることも感じられた。9月「日本の太鼓」は、神祭りなどで演じられる太鼓芸能と、創作芸能としての太鼓を組み合わせた公演は、国立劇場ならではの企画といえる。「光の群像」は、その演奏の質の高さは言うまでもないが、倉敷天領太鼓とともに民俗芸能としての2つの太鼓と同様、身体技法としての太鼓演奏が加味され、「全身全霊で打つ『打ち込み』がテーマです」という意図が、十分に理解できる内容で、今後の太鼓公演のテーマ設定の豊かな可能性が窺える公演だった。

「日本の太鼓」のシリーズが担う役割は今後も大いにあると思われるが、継続させていくためには、その回ごとの新しい展開を、幅広い人々に対してわかりやすくアピールするさらなる工夫を期待したい。

(文楽劇場)

・ 舞踊公演について、東西の流派の家元や実力者を一堂に見ることができる贅沢な舞踊公演。通常の舞踊公演はたいてい流派の舞踊家だけしか出演しないので、こういう企画こそ国立ならではの。ぜひ続けていただきたい。

・ 舞踊・邦楽公演は、バラエティに富んだジャンルと人選で、実力もあり、こういう人材をきちんと取り上げることができる劇場の制作陣の勉強ぶりに頭が下がる。ただ、多岐にわたるジャンルだからこそ、全体を見たときの盛り上がり欠けるので、テーマを決めるなり、これが今回の目玉と劇場側で打ち出すなど、ときには公演自体に工夫をこらしてもいいのではないか。

・ 特別企画公演は、チケット完売ということだが、関西の観客の声明へ関心の高さがうかがわれると同時に、東京からの観客もだいぶいたようである。宗教における伝統音楽の公演を国立の劇場で実施することの意義深さも思った。

4. アンケート調査

舞踊公演4回(うち本館5月舞踊公演3回)、邦楽公演2回、雅楽公演1回、声明公演1回、民俗芸能公演1回、琉球芸能公演1回、特別企画公演2回(計12回実施)

回答者数3,291人(配布数5,144人、回収率64.0%)、回答者の84.5%が概ね満足と答えた(2,781人)。

【特記事項】

- ・ 平成24年度(第67回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場10月舞踊公演)
- ・ 平成24年度(第67回)文化庁芸術祭協賛公演(10月邦楽2公演、11月声明、11月舞踊)
- ・ 本館の5月舞踊公演「菅原草紙」は、東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、東京発・伝統WA感動実行委員会と共催で実施した。
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場5月舞踊・邦楽、7月邦楽、9月特別企画、10月舞踊の各公演)
- ・ 大阪文化祭参加(文楽劇場5月舞踊・邦楽公演)
- ・ 上演内容に応じて、字幕表示装置により、演奏にあわせて詞章等を表示し鑑賞の助けとした。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 20,594 人／目標 20,940 人（達成度 98.3%）

《短期公演詳細表》

舞 踊

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
5月舞踊公演 二代花柳壽輔による「花形舞踊研究会」名作の復活「菅原草紙」舞踊『菅原伝授手習鑑』	本館 大劇場	5/25（金） ～26（土）	実績	3回	2日	2,977人	(67.7%)	4,398人
			計画	3回	2日	3,000人	(68.2%)	4,398人
8月舞踊公演 「花形・名作舞踊鑑賞会」	本館 小劇場	8/18（土）	実績	2回	1日	711人	(68.1%)	1,044人
			計画	2回	1日	770人	(73.8%)	1,044人
11月舞踊公演 「舞の会-京阪の座敷舞-」		11/23（金）	実績	2回	1日	948人	(80.3%)	1,180人
			計画	2回	1日	1,000人	(84.7%)	1,180人
3月舞踊公演 「素踊りの会」	3/16（土） ～17（日）	実績	2回	2日	787人	(66.7%)	1,180人	
		計画	2回	2日	910人	(77.1%)	1,180人	
【本館舞踊 小 計】 4 公演（計画：4 公演）			実績	9回	6日	5,423人	(69.5%)	7,802人
			計画	9回	6日	5,680人	(72.8%)	7,802人
10月舞踊公演 「東西名流舞踊鑑賞会」	文楽劇場	10/13（土）	実績	2回	1日	816人	(60.3%)	1,354人
			計画	2回	1日	790人	(58.3%)	1,354人
【舞踊 合計】 5 公演（計画：5 公演）			実績	11回	7日	6,239人	(68.1%)	9,156人
			計画	11回	7日	6,470人	(70.7%)	9,156人

2. 営業・広報

・ マスコミ各社への取材依頼を行い、各公演とも数社によるインタビュー記事掲載に尽力している。ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、国立文楽劇場友の会会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。本館5月公演は新聞2紙に取材記事、公演評も1紙掲載。本館8月公演は新聞2紙に取材記事、公演評も1紙掲載された。文楽劇場10月公演は公演前の掲載等は、新聞記事2件だった。

3. 外部専門家等の意見

（本館）

・ 5月「舞踊菅原草紙」は、舞踊界の活性化・刺激、多角的な舞踊公演の創造、問題提起となったのだろう。花柳壽輔の熱意、流儀に有能で各層に豊富な舞踊家の存在を示したと思う。名作舞踊の復活は、歌舞伎作品の通し・復活とともに大賛成である。一流儀のみで実現させるのは課題が多

いが、他の流派にはどう写ったのか。他の流派の舞踊家をもっと増やせたのか。検証をお願いしたい。

・ 8 月「花形名作舞踊鑑賞会」では、「舌出し三番叟」「神楽娘」「蚤取り男」の演目は楽しく夏らしい企画だった。花形舞踊家にとっても普段は中々手掛けられないような曲が並んでおり、観客にとっても御馳走といい。ただ、重量感たっぷりで実力が追いつかず、もたれ気味の感がするものもあった。流儀の特色ある演目の継承という面もあるかと思うが、過ぎたるは及ばざる…点もあるのではないか。

・ 11 月「舞の会」は、京阪の花街を主な場にして独自の発展をしてきた、いわゆる上方舞に特化した公演である。上方舞の魅力を広く東都の一般に示してきた、技芸の伝承という面でも大きな刺激を与えてきた企画と思う。今回も、新人の登用は喜ぶたいが、かつての名手や現在のベテランの隙間を伺うような成果という疑問符が付く。穴は埋められていない印象だ。息の長い取組を望みたい。

・ 3 月「素踊りの会」は、初日に今、勢いのある花柳基を入れたのだから、各流のスター級を 2 日間でもう 1 組でも加えたら全体の印象が違ってくる。素踊りの会の集客に当たっては思い切った手法が今後は求められると思う。演劇界で今、流行りのアフタートークを付ける。トリの出演者か、素踊りの演目について面白く話せる舞踊家と制作者とのトークという手もある。西川祐子の「萬歳」、基の「外記猿」、尾上親子の「連獅子」が素踊りならではの舞台だった。新旧交代、世代交代、体が動かなくなった踊り手の素踊り。課題が見つかった。

(文楽劇場)

・ 東西の流派の家元や実力者を一堂に見ることができる贅沢な舞踊公演。通常の舞踊公演はたいてい流派の舞踊家だけしか出演しないので、こういう企画こそ国立ならではの。ぜひ続けていただきたい。

4. アンケート調査

5 月公演(本館大劇場・3 回、内 2 回は伝統 WA 感動実行委員会と共同で実施)・3 月公演(本館小劇場・1 回)で実施。

回答数 515 人(配布数 1,133 人、回収率 45.5%)、回答者の 83.9%が概ね満足と答えた(432 人)。

【特記事項】

- ・ 平成 24 年度(第 67 回)文化庁芸術祭主催(文楽劇場 10 月舞踊)
- ・ 平成 24 年度(第 67 回)文化庁芸術祭協賛公演(11 月公演)
- ・ 共催:東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、東京発・伝統 WA 感動実行委員会(5 月公演)
- ・ 舞踊公演では異例の両花道を使用した(5 月公演)。
- ・ 字幕表示装置により、演奏に合わせて歌詞を表示して鑑賞の助けとした。(本館の 4 公演)
- ・ 関西元氣文化圏共催事業(文楽劇場 10 月舞踊)

邦 楽

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
-----	----	----	----	----	----	------	-----	-----

6月邦楽公演 「邦楽名曲鑑賞会 掛合の美」	本館 小劇場	6/16(土)	実績	1回	1日	420人	(71.2%)	590人	
			計画	1回	1日	425人	(72.0%)	590人	
7月邦楽公演 邦楽へのいざない 「親子で楽しむ日本の音／名曲で知る邦楽の世界」		7/21(土)	実績	2回	1日	939人	(79.6%)	1,180人	
			計画	2回	1日	850人	(72.0%)	1,180人	
10月邦楽公演 「邦楽鑑賞会 琵琶の会・新内の会」		10/13(土)	実績	2回	1日	835人	(70.8%)	1,180人	
			計画	2回	1日	850人	(72.0%)	1,180人	
10月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」		10/27(土)	実績	1回	1日	572人	(96.9%)	590人	
			計画	1回	1日	575人	(97.5%)	590人	
1月邦楽公演 「邦楽鑑賞会 一長唄の会・三曲の会」		1/19(土) ～20(日)	実績	2回	2日	1,088人	(92.2%)	1,180人	
			計画	2回	2日	1,000人	(84.7%)	1,180人	
【本館邦楽 小 計】		5公演(計画:5公演)		実績	8回	6日	3,854人	(81.7%)	4,720人
				計画	8回	6日	3,700人	(78.4%)	4,720人
7月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」	文楽劇場	7/7(土)	実績	1回	1日	657人	(87.3%)	753人	
			計画	1回	1日	680人	(90.3%)	753人	
【邦楽 合計】		6公演(計画:6公演)		実績	9回	7日	4,511人	(82.4%)	5,473人
				計画	9回	7日	4,380人	(80.0%)	5,473人

2. 営業・広報

マスコミ各社への取材依頼を行い、各公演とも数社によるインタビュー記事掲載に尽力している。ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、国立文楽劇場友の会会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。本館6月公演は公演評1紙掲載。本館7月公演は新聞2紙に取材記事が掲載された。文楽劇場7月公演は新聞記事掲載が2件、出演者のラジオへの出演が1件だった。

3. 外部専門家等の意見

(本館)

- 6月公演「掛合の美」では、種目別ではなく、多種目を「掛合」という視点から横断的に紹介した点に新鮮味があった。また朝比奈は、富本を清元に移してのいわば復活上演のようなもので、大変意欲的な取組だと思った。民俗芸能も視野に入れた「掛け合い」に関する小島美子氏の解説も面白かった。
- 7月公演「親子で楽しむ日本の音」は、タイトルどおりの観客層にアピールできる内容で、藤原道山師のわかりやすく聞きやすい解説は、彼の知名度以上に観客を惹きつけていた。実力を持った若手の演奏者の人選、会場の使い方や選曲にも工夫があった。「名曲で知る邦楽の世界」は、《六段の調》《三千歳》《蘭蝶》《京鹿子娘道成寺》という王道の名曲を、第一線で活躍中の演奏者によって提供する企画であった。《六段の調》以外は演奏時間の長い曲であるが、曲の魅力が十分に引き出されていたため、時間的な長さを感じさせなかった。葛西氏と篠崎氏の案内も、楽しい「いざない」になっていた。体験コーナーは、参加している人たち

は非常に熱心で、このコーナーの役割は小さくないと思う。

- ・ 10月公演「琵琶の会」は、各流派の演奏者を集めて紹介するというオーソドックスな企画も、若手の起用を視野に入れた人選も、目指すところは納得のできるものであった。奥村旭翠師はその実力を余すところなく披露。その声の劇的迫力に圧倒された。「新内の会」では、端もの、段もの、チャリものを含む作品の選び方、若手・中堅・ベテラン、女性・男性を含む出演者の多彩な顔ぶれが、新内節の魅力を多面的に伝えた。これだけの内容を一度に聴くことのできる機会は少なく、国立劇場ならではの企画力によって実現した公演と言える。「琵琶の会」「新内の会」を同じ日に行ったことは、種目ごとに愛好者が異なる日本音楽の事情や劇場の都合によるものと推察したが、両方の公演を楽しみたい観客もいるであろうし、また、日本音楽に幅広く親しむ観客の開拓も望まれることを考えると、時間や体力に無理がないよう、日にちを別に設定しても良かったかもしれない。
- ・ 10月公演「文楽素浄瑠璃の会」は、太夫にとっても、長丁場を一人で語り通すのはなかなか大変だろうが、芸を磨くよい機会だと思う。できるだけ多くの太夫にこうした語りを経験する機会があるとよいと思う。人気のある名曲2作と復曲1作はそれぞれ性格が違い、組み合わせには工夫が感じられた。《大塔宮曦鎧 身替り音頭の段》が加わっていることが、プログラムの大きな魅力となっていた。解説書の『大塔宮曦鎧』のあらすじは少々わかりにくかった。また、出演者情報がもう少し詳しく載ってもいいかもしれない。
- ・ 1月公演「長唄の会」のプログラムは、唄と三味線の演奏、鳴り物入りの演奏、男性・女声陣の演奏を上手く取り混ぜており、曲順も含めて、とても良かった。それぞれに異なる曲趣を、長唄界を代表する中堅・ベテランの演奏によって楽しむことができた。今回開演時間が午後1時というのは、土曜日とはいえやや早いのではないだろうかと思われる。「三曲の会」は満席ではないものの、かなりの客を集め、定着した公演としての人気の高さが示された。「松竹梅」は山田、生田の他流試合としても聴き映えのする演奏であった。《竹生島》は、一部にやや乱れはあったが、一中節と箏歌の声の特徴、中棹と細棹の音色を対比させ、物語を立体的に表現した。長唄とともに、「格調高く華やかな響きの世界」、つまり名人による名曲の名演というコンセプトはよいと思うが、今後については、何か企画性のあるテーマでプログラムを組むこともできるのではないかと思った。

(文楽劇場)

- ・ 7月文楽劇場「文楽素浄瑠璃の会」は、ポピュラーな演目から、珍しい作品まで、おもしろい番組だった。『入間詞長者気質』はほとんどやられない演目ということで、楽しく聴く事ができた。パンフレットに、毎回、演者が語る「聴きどころ」を載せるのはたいへんよいと思う。より高度な理解への入り口として、この種の情報が観客に提供されるのは有益である。

4. アンケート調査

7月公演、10月公演で実施(2回)。

回答数 598人(配布数 860人、回収率 69.5%)。回答者の 82.9%が概ね満足と答えた(496人)。

【特記事項】

- ・ 平成24年度(第67回)文化庁芸術祭協賛公演(10月邦楽「琵琶の会」「新内の会」、「文楽素浄瑠璃の会」)
- ・ 字幕表示装置により、演奏に合わせて歌詞を表示して鑑賞の助けとした。(本館の4公演)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場7月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」)

雅 楽

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
9月雅楽公演 「四天王寺の聖霊会 舞楽四箇法要」	本館大劇場	9/15 (土)	実績	1回	1日	1,104人	(69.9%)	1,580人
			計画	1回	1日	1,500人	(94.3%)	1,590人
3月雅楽公演 「管絃-巻越調と平調-」	本館小劇場	3/2 (土)	実績	1回	1日	549人	(93.1%)	590人
			計画	1回	1日	500人	(84.7%)	590人
【雅楽 合計】	2公演 (計画: 2公演)		実績	2回	2日	1,653人	(76.2%)	2,170人
			計画	2回	2日	2,000人	(91.7%)	2,180人

2. 営業・広報

マスコミ各社への取材依頼を行い、各公演とも数社によるインタビュー記事掲載に尽力している。ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。

3. 外部専門家等の意見

- 9月雅楽は、複雑な進行からなる次第が、字幕とプログラムで分かりやすく示されていたように思う。また国立劇場の公演を意識したためであろうか、数年前に現地で聞いたときより、声明の付楽などは格段に良い音響が作られていた。

四天王寺の行事として現代人に合わせたと思われる上演形態によって失われた伝統に関しても、何らかの方法で検証する必要がある。常に変化するのが伝統であり、その一翼を担う国立劇場だが、逆に、伝統を守り、かつての姿を検証する一助になる事も、国立劇場の存在理由の一つと考えられないだろうか。

昭和44年以来久々の上演で、省略を最低限に抑え、聖霊会の華やかな全体像を分かりやすく紹介するという姿勢が見てとれ、東京で居ながらにして聖霊会を楽しむことを体現した公演であった。

- 3月雅楽は、伝統的な管絃の公演を、特に目を引くような細工もなく行っていくのは国立劇場の一つの大きな役割のように思う。このような公演を是非定期的に行って欲しいと思う。

宮内庁楽部の演奏家の若手の台頭が著しく、はつらつとした演奏だと感じた。解説書の安齋省吾氏による説明も分かりやすく、特に「調子について」と「曲目解説」を分けた点は非常に親切であったと思う。

これまでの公演と前回・次回の公演の内容を見ると、公演間の関連があり、雅楽をより分かりやすく伝えるよう配慮されている。

4. アンケート調査

3月公演(本館小劇場)で実施(1回)。

回答数 381人(配布数 500人、回収率 76.2%)。回答者の 86.6%が概ね満足と答えた(330人)。

【特記事項】

- 9月公演、3月公演ともに、あぜくらの会員を対象とした事前レクチャーを実施した。

(9月公演)「四天王寺の聖霊会について」9月5日(水)14:00、レクチャー室

参加者数 107 人 講演＝南谷美保(四天王寺大学教授)
 (3月公演)「管絃－壹越調と平調－について」2月21日(木)14:00、レクチャー室
 参加者数 101 人 出演＝豊英秋、安齋省吾、大窪永夫

声 明

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
11月声明公演 「大念佛寺の声明 万部法要」	本館小劇場	11/10(土)	実績	2回	1日	824人	(78.9%)	1,044人
			計画	2回	1日	900人	(86.2%)	1,044人

2. 営業・広報

マスコミ各社への取材依頼を行い、各公演とも数社によるインタビュー記事掲載に尽力している。ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。

3. 外部専門家等の意見

・ 全員の僧侶が声明の細かな装飾音に至るまで、丁寧に揃って唱和され、雅楽と相和し、まさに極楽浄土はさもあらん、と思わずにはいられなかった。6月特別企画、9月雅楽公演とともにいずれも仏教音楽と舞楽との協働によるもので、聴衆にとっても見応え聴き応えのある公演であった。また雅楽と仏教行事との深い関わりを伝え、関西の人々に親しまれている仏教行事の様子を関東の人々に伝える上でも非常に有意義であった。

公演に先立つ吉村暉英宗務総長の解説も興味深く、分かりやすいものであった。花道を使った「お練り」は観客を魅了したとともに、二十五菩薩が手にした楽器には、大いに興味をそそられた。

4. アンケート調査

回答数 353 人(配布数 431 人、回収率 81.9%)。回答者の 81.0%が概ね満足と答えた(286 人)。

【特記事項】

- ・ 平成 24 年度(第 67 回)文化庁芸術祭協賛
- ・ 字幕表示装置により、演奏に合わせて式次第、経文を表示して鑑賞の助けとした。

民俗芸能、琉球芸能

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
6月民俗芸能公演 「東日本大震災復興支援 東北の芸能 I 岩手」	本館小劇場	6/23(土)	実績	2回	1日	1,104人	(93.6%)	1,180人
			計画	2回	1日	900人	(76.3%)	1,180人
2月民俗芸能公演 「東日本大震災復興支援 東北の芸能 II 岩手」	本館小劇場	2/2(土)	実績	2回	1日	1,008人	(85.4%)	1,180人

災復興支援 東北の芸能Ⅱ宮城]			計画	2回	1日	950人	(80.5%)	1,180人
【民俗芸能 小 計】 2公演(計画:2公演)			実績	4回	2日	2,112人	(89.5%)	2,360人
			計画	4回	2日	1,850人	(78.4%)	2,360人
3月琉球芸能公演 「新作組踊と琉球舞踊」	本館 小劇場	3/8(金) ~10(日)	実績	3回	3日	1,677人	(94.7%)	1,770人
			計画	3回	3日	1,590人	(89.8%)	1,770人
【民俗芸能・琉球芸能 合計】 3公演(計画:3公演)			実績	7回	5日	3,789人	(91.7%)	4,130人
			計画	7回	5日	3,440人	(83.3%)	4,130人

2. 営業・広報

マスコミ各社への取材依頼を行い、各公演とも数社によるインタビュー記事掲載に尽力している。ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。6月は新聞3紙に取材記事、公演評3紙が掲載された。2月は新聞2紙に取材記事が掲載された。3月琉球芸能は新聞27件に取材記事、公演評9件が掲載された。

3. 外部専門家等の意見

- 6月民俗芸能公演では、それぞれ上演に先立って地域の被災状況と芸能伝承に対する取組、上演芸能の内容等についての説明がなされた。今回公演された虎舞、剣舞、しし踊り、神樂は、岩手県の北上山地から三陸沿岸地域の代表的な民俗芸能であり、限られた日程の中での公演芸能の選択としては適切だったといえる。震災復興支援という目的に加え、印刷物の解説によって、この地方の主な民俗芸能を知る機会にもなったといえよう。
虎舞、剣舞、しし踊り、黒森神樂のいずれも、実際に演じられる場で必要となる祭壇等々、民俗芸能公演としての舞台設営も適切であった。時間が限られているので、上演演目はそれぞれ主要部に絞られていたが、黒森神樂のシットギ獅子は、実際に演者が観客の顔にシトギ(塗)を付けてまわり、演者と観客が一体感をもつという民俗芸能の特色を体感する工夫がなされていた。
- 2月民俗芸能公演では、宮城県内に伝わる数種の民俗芸能を上演することによって、多様な、しかも長い歴史の中で庶民によって育まれてきた芸能が存在することが理解されたと言える。一地方がもつ多様な伝承文化の復興への視点が提示できている。演技に先立って代表者が、3・11被災以後の復興状況報告と、全国から寄せられた支援に対するお礼が述べられ、公演意図を観客に示す方法としてよかったと思う。今回、雄勝法印神樂が上演した「鉤弓」は、実に60年ぶりの実演ということで、この国立劇場への出演が、震災からの再起だけでなく、失われつつあった演目の再生にも一役かったことになると言えるだろう。
- 3月琉球芸能公演では、第一部は琉球舞踊で、女踊・四つ竹、若衆踊・摩(ぜい)、女踊・本貫花、二才踊・前の浜、女踊・柳の5題、第二部は新作組踊として「聞得大君誕生」が上演された。琉球芸能公演は今回で16回目を迎えるが、沖縄の若手の演者に、歌舞伎俳優の坂東玉三郎を迎えての公演であり、今回の琉球芸能公演のもつ意義が大きいことは衆目の一致するところであろう。組踊そのものが、かつて玉城朝薫がヤマトの芸能を取り込みながら組み立てたことを考えるなら、こうした試みがあっても当然と思われるが、初めて歌舞伎俳優が主役を演ずるといふ今回の公演については、関係各位の熱意と努力があって実現でき、その成功に祝意を表したい。

4. アンケート調査

6月民俗芸能公演で実施(1回)。

回答数 425人(配布数 562人、回収率 75.6%)。回答者の 90.1%が概ね満足と答えた(383人)。

3月琉球芸能公演で実施(1回)。

回答数 371人(配布数 553人、回収率 67.1%)。回答者の 81.9%が概ね満足と答えた(304人)。

【特記事項】

(6月民俗芸能公演 東日本大震災復興支援「東北の芸能」Ⅰ 岩手)

- ・ 後援：岩手県、岩手県教育委員会
- ・ 小劇場ロビーで「岩手の芸能」支援募金を行った。義援金は岩手県内被災地の民俗芸能の支援に充てるため、公益財団法人岩手県文化振興事業団主宰「いわて芸術文化復興エイド寄附金」に寄附した。
- ・ 岩手県の協力で県内の観光パンフレットをロビーで配布し、劇場2階休憩所において岩手県の物産展を開催した。
- ・ 字幕表示装置により、舞台の進行に合わせて詞章等を表示し鑑賞の助けとした。

(2月民俗芸能公演 東日本大震災復興支援「東北の芸能」Ⅱ 宮城)

- ・ 後援：宮城県・宮城県教育委員会
- ・ 小劇場ロビーで「宮城の芸能」支援募金を行った。義援金は、宮城県内の文化芸術活動の支援に充てるため、公益財団法人宮城県文化振興財団に寄附した。
- ・ 小劇場ロビーにて宮城県の観光案内、及び物産展を設けた。

(3月琉球芸能公演 「新作組踊と琉球舞踊」)

- ・ 2社企業より特別協賛を得た。(沖縄県酒造協同組合、オリオンビール(株))
- ・ 小劇場ロビーで国立劇場おきなわ職員が紅型衣裳を模した法被をつけて広報宣伝活動を行った。また、沖縄の物産販売コーナーを設けた。
- ・ 字幕表示装置により、舞台の進行に合わせて詞章等を表示し鑑賞の助けとした。

特別企画

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4月舞踊・邦楽公演「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」	本館 小劇場	4/21(土)	実績	1回	1日	368人	(62.4%)	590人
			計画	1回	1日	450人	(76.3%)	590人
6月特別企画公演 「伎楽—日本伝来1400年—」	本館 小劇場	6/2(土)	実績	2回	1日	1,125人	(95.3%)	1,180人
			計画	2回	1日	1,000人	(84.7%)	1,180人
9月特別企画公演「日本の太鼓 一打に込める思い」	本館 大劇場	9/1(土)	実績	1回	1日	1,039人	(64.5%)	1,610人
			計画	1回	1日	1,250人	(77.6%)	1,610人
【本館特別企画 小計】	3公演(計画:3公演)		計画	4回	3日	2,532人	(74.9%)	3,380人
			実績	4回	3日	2,700人	(79.9%)	3,380人
5月舞踊・邦楽公演 「新進と	文楽劇場	5/12(土)	計画	1回	1日	319人	(47.1%)	677人

花形による舞踊・邦楽鑑賞会			実績	1回	1日	400人	(59.1%)	677人
9月特別企画公演「黄檗宗大本山 萬福寺の梵唄～黄檗・禪の声明～」		9/15(土)	計画	1回	1日	727人	(96.5%)	753人
			実績	1回	1日	650人	(86.3%)	753人
【文楽劇場特別企画 小計】	2公演(計画:2公演)		計画	2回	2日	1,046人	(73.1%)	1,430人
			実績	2回	2日	1,050人	(73.4%)	1,430人
【特別企画公演 合計】	6公演(計画:6公演)		計画	6回	5日	3,578人	(74.4%)	4,810人
			実績	6回	5日	3,750人	(78.0%)	4,810人

2. 営業・広報

・ マスコミ各社への取材依頼を行い、各公演とも数社によるインタビュー記事掲載に尽力している。ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、国立文楽劇場友の会会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。本館9月公演は新聞3紙に取材記事が掲載された。文楽劇場5月舞踊・邦楽公演は新聞記事掲載2件、9月特別企画公演は新聞記事掲載3件、ラジオでの公演紹介1件であった。文楽劇場9月特別企画公演では萬福寺の関係団体に対し勧誘を行った。

3. 外部専門家等の意見

(本館)

- ・ 4月舞踊・邦楽公演では、邦楽については、新進芸術家の登竜門として伝統ある会だけに、出演者の意気込みや緊張感が伝わるような熱演となった。例年に比べると、「新進」であるがゆえの未熟さがそれほどなく、むしろ、「新進」としての気概にあふれた好演が続いた。舞踊については、清元「玉屋」の若柳薫子は、情景描写が細かく、顔の表情での演じ分けがクッキリと良い。小柄なのでキビキビとしていた。清元「雨の権八」の花柳琴臣は、台詞のうまさに感心したが、表情に課題。憂い顔が固定化したように多く、柔らかい色男ぶりがもっと欲しい。また2人とももっと観客にアピールするものがもっとほしい。新進らしいパンチが足りないと思う。本公演のさらなる継続と、一層の内容の充実を願う。
- ・ 6月伎楽公演では、再現された伎楽はもとよりかつての姿そのままではないが、天理大学の伎楽はすでに30年におよぶ歴史を有しているので、これ自体がすでに新たな伝統になりつつあることも感じられた。プログラムに、芝祐靖氏、佐藤浩二氏、吉岡幸雄氏らによる伎楽曲の復曲の背景が記されているのも、今回の公演の背景を知る上で参考になった。声明は、客席から登場する練供養に始まり、お客様も参加させての「惣礼」なども、演出的に楽しめるものであった。ただ、非常にコンパクトにまとめすぎたことは否めない。「新伎楽」の筋の語りを、薬師寺の論義の語り口で行っていたが、これは薬師寺流の語り物、現代の仏教の語り物として興味深い。伎楽は、復元・復曲ではなく、いわば現代の伎楽であり、新たな芸能、パフォーマンスとも言える。それぞれ個性ある役柄であり、関連性にも乏しいが、ストーリー性を持たせ、行道の後、寝てしまった獅子を欄干の外側、舞台の上手に伎楽の奏者を下手にそれぞれ配して、舞台に奥行きを持たせ、観客は一つの音楽劇として楽しめたのではないだろうか。
- ・ 9月「日本の太鼓」は、神祭りなどで演じられる太鼓芸能と、創作芸能としての太鼓を組み合わせた

公演は、国立劇場ならではの企画といえる。「光の群像」は、その演奏の質の高さはいうまでもないが、倉敷天領太鼓とともに民俗芸能としての2つの太鼓と同様、身体技法としての太鼓演奏が加味され、「全身全霊で打つ『打ち込み』がテーマです」という意図が、十分に理解できる内容で、今後の太鼓公演のテーマ設定の豊かな可能性が窺える公演だった。

「日本の太鼓」のシリーズが担う役割は今後も大いにあると思われるが、継続させていくためには、その回ごとの新しい展開を、幅広い人々に対してわかりやすくアピールするさらなる工夫を期待したい。

(文楽劇場)

- ・ 文楽劇場 5月舞踊・邦楽公演は、バラエティに富んだジャンルと人選で、実力もあり、こういう人材をきちんと取り上げることができる劇場の制作陣の勉強ぶりに頭が下がる。ただ、多岐にわたるジャンルだからこそ、全体を見たときの盛り上がり欠けるので、テーマを決めるなり、これが今回の目玉と劇場側で打ち出すなど、ときには公演自体に工夫をこらしてもいいのではないか。
- ・ 文楽劇場 9月特別企画公演は、チケット完売ということだが、関西の観客の声明へ関心の高さがうかがわれると同時に、東京からの観客もだいぶいたようである。宗教における伝統音楽の公演を国立の劇場で実施することの意義深さも思った。

4. アンケート調査

本館 6月特別企画公演で実施(1回)。

回答数 346人(配布数 518人、回収率 66.8%)。回答者の 78.6%が概ね満足と答えた(272人)。

文楽劇場 9月特別企画公演で実施(1回)

回答数 302人(配布数 587人、回収率 51.4%)回答者の 92.1%が概ね満足と答えた(278人)

【特記事項】

- ・ 字幕表示装置により、詞章等を表示し鑑賞の助けとした(本館 4月舞踊・邦楽、本館 6月特別企画「伎楽」、文楽劇場 9月特別企画公演)
- ・ 本館 9月特別企画公演「日本の太鼓」において、株式会社浅野太鼓楽器店の協力を得た。
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場 5月舞踊・邦楽公演、9月特別企画公演)
- ・ 大阪文化祭参加(文楽劇場 5月舞踊・邦楽公演)
- ・ 文楽劇場 9月特別企画公演プレ講座「禅の声明—萬福寺の梵唄—」を開催した。(8月23日、小ホール、参加人数 144名)

2-(1)-④ 大衆芸能

1. 公演実績

公演名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
【定席公演】	20 公演 演芸場	実績	221回	199日	34,308人	(51.7%)	66,300人
		計画	219回	199日	32,700人	(49.8%)	65,700人
【花形演芸会】	12 公演 演芸場	実績	12回	12日	3,151人	(87.5%)	3,600人
		計画	12回	12日	3,310人	(91.9%)	3,600人

【新春国立名人会】	1 公演 演芸場	実績	8回	6日	2,383人	(99.3%)	2,400人
		計画	8回	6日	2,300人	(95.8%)	2,400人
【国立名人会】	10 公演 演芸場	実績	10回	10日	2,709人	(90.3%)	3,000人
		計画	10回	10日	2,900人	(96.7%)	3,000人
【特別企画公演】	11 公演 演芸場	実績	16回	15日	4,403人	(91.7%)	4,800人
		計画	16回	15日	4,470人	(93.1%)	4,800人
【大衆芸能(演芸場)合計】 54公演		実績	267回	242日	46,954人	(58.6%)	80,100人
		計画	265回	242日	45,680人	(57.5%)	79,500人
【師走浪曲名人会】	1 公演 文楽劇場	実績	1回	1日	743人	(98.7%)	753人
		計画	1回	1日	700人	(93.0%)	753人
【浪曲錬声会】	1 公演 文楽劇場小ホール	実績	2回	1日	258人	(81.1%)	318人
		計画	2回	1日	260人	(81.8%)	318人
【上方演芸特選会】	6 公演 文楽劇場小ホール	実績	24回	24日	3,520人	(92.2%)	3,816人
		計画	24回	24日	2,880人	(75.5%)	3,816人
【大衆芸能(文楽劇場)合計】 8公演		実績	27回	26日	4,521人	(92.5%)	4,887人
		計画	27回	26日	3,840人	(78.6%)	4,887人
【大衆芸能公演 総合計】 62公演		実績	294回	268日	51,475人	(60.6%)	84,987人
		計画	292回	268日	49,520人	(58.7%)	84,387人

2. 営業・広報

- ・ 広報として、インターネット・あぜくら会報・振興会ニュースの配布、公演ガイド等で国立演芸場に係る公演の周知に努めた。公共施設、学校、デパート、近隣の施設などの団体顧客にポスター・チラシを配布し、また、新聞記事、雑誌記事、新聞広告等により公演の宣伝を図った。
- ・ 文楽劇場では、広報としてチラシ・ポスター・インターネット・国立文楽劇場友の会会報・振興会ニュースの配布等で公演の周知に努めた。また、地元ラジオ局に働きかけ、演者の番組出演や番組内での視聴者プレゼントによる公演紹介を行った。

3. 外部専門家等の意見

(演芸場)

- ・ 定席公演、企画公演、若手新人公演と、それぞれに特色があり、バランスが良い。
- ・ 観客のマナーが良く、前売券を販売することも国立演芸場の魅力。
- ・ 企画公演は、集客のみの成果を求めらるのではなく、今後の発展を視野に入れて企画して欲しい。
- ・ 若手の育成や、新作脚本の発掘など、国立演芸場ならではの仕事は、意義深い。
- ・ 震災の影響で一時観客数が落ち込んだが、復活の兆しを見せている。いっそうの努力をされたい。

(文楽劇場)

- ・「上方演芸特選会」は団体の扱いがあり、客席は満席で非常に良いことだと思う。営業、企画、制作、宣伝他スタッフのみなさんのご努力によるものだと思う。団体にはお客様の質も良く、きっと出演者もやりやすかったのではと思っている。

4. アンケート調査

(演芸場)

12公演で実施(12回)した。

回答数 1,139 人(配布数 3,008 人、回収率 37.9%)。回答者の 91.7%が概ね満足と答えた(1,045 人)。

(文楽劇場)

3 月上旬演芸特選会で実施(1 回)した。

回答数 113 人(配布数 162 人、回収率 69.8%)。回答者の 87.6%が概ね満足と答えた(99 人)。

【特記事項】

- ・平成 24 年度(第 67 回)文化庁芸術祭協賛公演(本館の 10 月・11 月実施の 8 公演)
- ・平成 24 年度(第 67 回)文化庁芸術祭協賛公演(文楽劇場 11 月上旬演芸特選会)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場)
- ・大阪文化祭参加(文楽劇場 5 月上旬演芸特選会・5 月浪曲録声会)

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 51,475 人／目標 49,520 人(達成度 103.9%)

《大衆芸能詳細表》

(1) 定席公演(上席・中席)

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4 月上席	演芸場	4/1 (日) ~ 10 (火)	実績	11 回	10 日	739 人	(22.4%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人
4 月中席		4/11 (水) ~ 20 (金)	実績	11 回	10 日	2,191 人	(66.4%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	2,600 人	(78.8%)	3,300 人
5 月中席		5/11 (金) ~ 20 (日)	実績	11 回	10 日	3,207 人	(97.2%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,700 人	(51.5%)	3,300 人
6 月上席		6/1 (金) ~ 10 (日)	実績	11 回	10 日	1,190 人	(36.1%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,300 人	(39.4%)	3,300 人
6 月中席	6/11 (月) ~ 20 (水)	実績	11 回	10 日	1,334 人	(40.4%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,300 人	(39.4%)	3,300 人	
7 月上席	7/2 (月) ~	実績	10 回	9 日	1,410 人	(47.0%)	3,000 人	

		10日(火)	計画	10回	9日	1,500人	(50.0%)	3,000人
7月中席	7/11(水)~ 20(金)	実績		11回	10日	980人	(29.7%)	3,300人
		計画		11回	10日	1,200人	(36.4%)	3,300人
8月上席	8/1(水)~ 10(金)	実績		11回	10日	1,153人	(34.9%)	3,300人
		計画		11回	10日	1,200人	(36.4%)	3,300人
8月中席	8/11(土)~ 20(月)	実績		11回	10日	3,408人	(103.3%)	3,300人
		計画		11回	10日	3,000人	(90.9%)	3,300人
9月上席	9/1(土)~ 10(月)	実績		11回	10日	837人	(25.4%)	3,300人
		計画		11回	10日	1,100人	(33.3%)	3,300人
9月中席	9/11(火)~ 20(木)	実績		11回	10日	865人	(26.2%)	3,300人
		計画		11回	10日	1,200人	(36.4%)	3,300人
10月上席	10/1(月)~ 10(水)	実績		11回	10日	645人	(19.5%)	3,300人
		計画		11回	10日	1,100人	(33.3%)	3,300人
10月中席	10/11(木) ~20(土)	実績		12回	10日	1,699人	(47.2%)	3,600人
		計画		11回	10日	1,100人	(33.3%)	3,300人
11月上席	11/1(木)~ 10(土)	実績		11回	10日	2,329人	(70.6%)	3,300人
		計画		11回	10日	1,700人	(51.5%)	3,300人
11月中席	11/11(日) ~20(火)	実績		11回	10日	2,707人	(82.0%)	3,300人
		計画		11回	10日	1,700人	(51.5%)	3,300人
1月中席	1/11(金)~ 20(日)	実績		11回	10日	2,501人	(75.8%)	3,300人
		計画		11回	10日	2,500人	(75.8%)	3,300人
2月上席	2/1(金)~ 10(日)	実績		12回	10日	2,008人	(55.8%)	3,600人
		計画		11回	10日	1,300人	(39.4%)	3,300人
2月中席	2/11(月)~ 20(水)	実績		11回	10日	3,076人	(93.2%)	3,300人
		計画		11回	10日	2,800人	(84.8%)	3,300人
3月上席	3/1(金)~ 10(日)	実績		11回	10日	1,107人	(33.5%)	3,300人
		計画		11回	10日	2,000人	(60.6%)	3,300人
3月中席	3/11(月)~ 20(水)	実績		11回	10日	922人	(27.9%)	3,300人
		計画		11回	10日	1,200人	(36.4%)	3,300人
【定席公演】 20 公演(計画:20 公演)		実績		221回	199日	34,308人	(51.7%)	66,300人
		計画		219回	199日	32,700人	(49.8%)	65,700人

※ 追加貸切公演を計2回実施した。(10月中席1回、2月上席1回)

2. 営業・広報

- ・ マスコミへの宣伝材料の提供及びポスター・チラシ・インターネット・あぜくら会報・振興会ニュース、新聞広告、演芸雑誌「東京かわら版」に公演案内等を行った。
- ・ 公演日程に合わせ学校ほか各種団体へ企画書を提出し、6 月には前年に引き続き「寄席の日」(6 月の第 1 月曜日)を落語協会、落語芸術協会及び都内の 4 演芸場と提携し、当日券の割引を実施した。
- ・ スタンプラリーも引き続き実施し、リピーターによる観客増につなげるよう務めた(1 回の観劇でスタンプを 1 回押し、スタンプ 5 個で粗品進呈)。また「秋の夜長」キャンペーンとして、夜の公演の鑑賞者にはスタンプを2回押しして販売促進に努めた。
- ・ 2 月上席の節分の日に入場者全員に豆を配布し、舞台からも豆撒きをして大いに喜ばれた。また、3 月上席の雛祭には入場者全員にひなあられを配布し、サービスの向上に努めた。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 定席公演で、落語協会と落語芸術協会が真打昇進披露を、桂平治が文治襲名披露公演を行ったことが良いアクセントとなった。圓丈のかぶき噺や、恒例ともなった鹿芝居など、定席における企画物も成果を挙げており、歌丸がネタ出しで定席を務めることも、観客の支持を得ている。

4. アンケート調査

定席公演では実施せず、花形・名人会・特別企画公演において実施した。

【特記事項】

- ・ 平成 24 年度(第 67 回) 文化庁芸術祭協賛公演(10 月・11 月公演)

(2) 若手新人公演(花形演芸会)

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4 月花形演芸会 (第 395 回)	演芸場	4/21 (土)	実績	1 回	1 日	203 人	(67.7%)	300 人
			計画	1 回	1 日	280 人	(93.3%)	300 人
5 月花形演芸会 (第 396 回)		5/26 (土)	実績	1 回	1 日	181 人	(60.3%)	300 人
			計画	1 回	1 日	280 人	(93.3%)	300 人
6 月花形演芸会 (第 397 回)		6/30 (土)	実績	1 回	1 日	298 人	(99.3%)	300 人
			計画	1 回	1 日	280 人	(93.3%)	300 人
7 月花形演芸会 (第 398 回)		7/22 (日)	実績	1 回	1 日	299 人	(99.7%)	300 人
			計画	1 回	1 日	280 人	(93.3%)	300 人
8 月花形演芸会 (第 399 回)		8/18 (土)	実績	1 回	1 日	217 人	(72.3%)	300 人
			計画	1 回	1 日	270 人	(90.0%)	300 人
9 月花形演芸会 (第 400 回)	9/30 (日)	実績	1 回	1 日	235 人	(78.3%)	300 人	
		計画	1 回	1 日	280 人	(93.3%)	300 人	
10 月花形演芸会 (第 401 回)	10/20 (土)	実績	1 回	1 日	305 人	(101.7%)	300 人	
		計画	1 回	1 日	280 人	(93.3%)	300 人	

11月花形演芸会(第402回)	11/3(土)	実績	1回	1日	299人	(99.7%)	300人
		計画	1回	1日	270人	(90.0%)	300人
11月花形演芸会(第403回)	11/25(日)	実績	1回	1日	296人	(98.7%)	300人
		計画	1回	1日	280人	(93.3%)	300人
1月花形演芸会(第404回)	1/19(土)	実績	1回	1日	289人	(96.3%)	300人
		計画	1回	1日	270人	(90.0%)	300人
2月花形演芸会(第405回)	2/2(土)	実績	1回	1日	249人	(83.0%)	300人
		計画	1回	1日	270人	(90.0%)	300人
3月花形演芸会(第406回)	3/9(土)	実績	1回	1日	280人	(93.3%)	300人
		計画	1回	1日	270人	(90.0%)	300人
【花形演芸会】 12公演(計画:12公演)		実績	12回	12日	3,151人	(87.5%)	3,600人
		計画	12回	12日	3,310人	(91.9%)	3,600人

2. 営業・広報

- ・ マスコミへの宣伝材料の提供、ポスター・チラシ・インターネット・あぜくら会報・振興会ニュース、新聞広告、演芸雑誌「東京かわら版」等により公演の周知を図った。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 定席では見られない、新たな出演者が発掘されていることは評価できる。花形演芸大賞を出すことで、演芸界に良い刺激となっている。何よりも受賞者本人にとって良い励みで、過去の受賞者が現在多く活躍している様子を見ると、この公演の重要性が感じられる。

4. アンケート調査

11月・1月公演で実施(2回)

回答数 215人(配布数 564人、回収率 38.1%)。回答者の 94.0%が概ね満足と答えた(202人)。

【特記事項】

- ・ 平成24年度花形演芸大賞の受賞者
大賞:春風亭一之輔
金賞:桂吉弥、柳亭左龍、翁家和助
銀賞:古今亭今輔、三遊亭歌奴、母心

(3) 新春国立名人会／国立名人会

1. 公演実績

(新春名人会)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
新春国立名人会	演芸場	1/2(水)～7(月)	実績	8回	6日	2,383人	(99.3%)	2,400人
			計画	8回	6日	2,300人	(95.8%)	2,400人

(国立名人会)※目標入場者数:1公演当り290人(96.7%)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4月国立名人会(第352回)	演芸場	4/22(日)	実績	1回	1日	294人	(98.0%)	300人
5月国立名人会(第353回)		5/27(日)	実績	1回	1日	289人	(96.3%)	300人
6月国立名人会(第354回)		6/23(土)	実績	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
7月国立名人会(第355回)		7/21(土)	実績	1回	1日	297人	(99.0%)	300人
8月国立名人会(第356回)		8/26(日)	実績	1回	1日	293人	(97.7%)	300人
9月国立名人会(第357回)		9/23(日)	実績	1回	1日	289人	(96.3%)	300人
10月国立名人会(第358回)		10/13(土)	実績	1回	1日	145人	(48.3%)	300人
11月国立名人会(第359回)		11/24(土)	実績	1回	1日	223人	(74.3%)	300人
2月国立名人会(第360回)		2/7(木)	実績	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
3月国立名人会(第361回)		3/24(日)	実績	1回	1日	299人	(99.7%)	300人
【国立名人会】	10公演(計画:10公演)	実績	10回	10日	2,709人	(90.3%)	3,000人	
		計画	10回	10日	2,900人	(96.7%)	3,000人	

2. 営業・広報

マスコミへの宣伝材料の提供、ポスター・チラシ・インターネット・あぜくら会報・振興会ニュースの配信・配布、新聞広告、演芸雑誌「東京かわら版」等により公演の周知を図り、集客に努めた。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 名人会はいつもその名にふさわしいでき栄えで、じっくり楽しめる会として高く評価できる。
- ・ 新春名人会は、他の寄席では各出演者の持ち時間が短くて新年の挨拶程度で入れ替わってしまうが、国立演芸場は新年から一席の嘶を聴けるところが評価できる。

4. アンケート調査

5月公演で実施(1回)

回答数 103人(配布数 284人、回収率 36.3%)。回答者の 92.2%が概ね満足と答えた(95人)。

【特記事項】

- ・ 平成24年度(第67回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月公演)
- ・ 新春国立名人会の初日(1月2日)には、吉例となった鏡開きを行い、観客にお酒を振る舞った。

(4) 特別企画公演

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4月特別企画 立川流落語会	演芸場	4/27(金)～ 29(日)	実績	3回	3日	873人	(97.0%)	900人
			計画	3回	3日	870人	(96.7%)	900人
6月特別企画 花形スペシャ	演芸場	6/24(日)	実績	1回	1日	294人	(98.0%)	300人

ル～受賞者の会～		計画	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
7月特別企画 親子で楽しむ 演芸会	7/28(土)	実績	1回	1日	295人	(98.3%)	300人
		計画	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
8月特別企画 圓丈かぶき噺 「白波五人男」を聴く会	8/25(土)	実績	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
		計画	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
9月特別企画 歌声寄席	9/22(土)	実績	1回	1日	293人	(97.7%)	300人
		計画	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
9月特別企画 女が語る	9/29(土)	実績	1回	1日	278人	(92.7%)	300人
		計画	1回	1日	270人	(90.0%)	300人
10月特別企画 芸術祭寄席	10/21(日)	実績	2回	1日	551人	(91.8%)	600人
		計画	2回	1日	500人	(83.3%)	600人
10月特別企画 五代目圓楽 一門会	10/26(金) ～28(日)	実績	3回	3日	755人	(83.9%)	900人
		計画	3回	3日	800人	(88.9%)	900人
11月特別企画 正蔵、正蔵を 語る	11/23(金)	実績	1回	1日	268人	(89.3%)	300人
		計画	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
2月特別企画 上方若手落語 会	2/23(土)	実績	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
		計画	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
3月特別企画公演 「圓朝に 挑む！」	3/23(土)	実績	1回	1日	216人	(72.0%)	300人
		計画	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
【特別企画公演】	11公演(計画:11公演)	実績	16回	15日	4,403人	(91.7%)	4,800人
		計画	16回	15日	4,470人	(93.1%)	4,800人

2. 営業・広報

- ・ マスコミへの宣伝材料、ポスター・チラシ・インターネット・あぜくら会報・振興会ニュースの配布・配信、新聞広告、演芸雑誌「東京かわら版」等により公演の周知及び広報に努め、集客増を図った。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 「立川流落語会」、「圓楽一門会」は、他の寄席では手掛けることのできない国立演芸場ならではの公演で、どちらもほぼ満席の集客を達成したことは次につながる成果と言える。

4. アンケート調査

4月、6月、7月、8月、9月、10月、2月、3月公演で実施(9回)
回答数 821人(配布数 2,160人、回収率 38.0%)。回答者の 91.1%が概ね満足と答えた(748人)。

【特記事項】

- ・ 平成 24 年度(第 67 回)文化庁芸術祭主催公演 (10 月)
- ・ 平成 24 年度(第 67 回)文化庁芸術祭共賛公演 (10 月・11 月)

(5) 師走浪曲名人会／浪曲錬声会／上方演芸特選会

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
師走浪曲名人会	文楽劇場	12/1(土)	実績	1回	1日	743人	(98.7%)	753人
			計画	1回	1日	700人	(93.0%)	753人
【師走浪曲名人会】	1公演(計画:1公演)		実績	1回	1日	743人	(98.7%)	753人
			計画	1回	1日	700人	(93.0%)	753人
浪曲錬声会	文楽劇場 小ホール	5/26(土)	実績	2回	1日	258人	(81.1%)	318人
			計画	2回	1日	260人	(81.8%)	318人
【浪曲錬声会】	1公演(計画:1公演)		実績	2回	1日	258人	(81.1%)	318人
			計画	2回	1日	260人	(81.8%)	318人
5月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	5/16(水) ~19(土)	実績	4回	4日	606人	(95.3%)	636人
			計画	4回	4日	480人	(75.5%)	636人
7月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	7/4(水) ~7(土)	実績	4回	4日	641人	(100.8%)	636人
			計画	4回	4日	480人	(75.5%)	636人
9月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	9/26(水) ~29(土)	実績	4回	4日	652人	(102.5%)	636人
			計画	4回	4日	480人	(75.5%)	636人
11月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	11/21(水) ~24(土)	実績	4回	4日	483人	(75.9%)	636人
			計画	4回	4日	480人	(75.5%)	636人
1月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	1/9(水) ~12(土)	実績	4回	4日	548人	(86.2%)	636人
			計画	4回	4日	480人	(75.5%)	636人
3月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	3/6(水) ~9(土)	実績	4回	4日	590人	(92.8%)	636人
			計画	4回	4日	480人	(75.5%)	636人
【上方演芸特選会】	6公演(計画:6公演)		実績	24回	24日	3,520人	(92.2%)	3,816人
			計画	24回	24日	2,880人	(75.5%)	3,816人
【大衆芸能(文楽劇場)合計】8公演(計画:8公演)			実績	27回	26日	4,521人	(92.5%)	4,887人
			計画	27回	26日	3,840人	(78.6%)	4,887人

2. 営業・広報

- ・ ポスター、チラシ、インターネット、国立文楽劇場友の会会報、振興会ニュース等により、公演の周

知を図るとともに、マスコミへの記者会見や取材依頼、ラジオ番組への出演や視聴者プレゼントによる公演紹介等を行い、一層の集客に努めた。

3. 外部専門家等の意見

- ・「師走浪曲名人会」は毎年盛り上がるが、今年も各演者に盛大に声がかかり、会場はすこぶる良い熱気に包まれた。
- ・「浪曲錬声会」は、浪曲の聞かせ方に個々の持ち味があり、多様性を感じさせたが、大衆芸能という点でいかにお客を高揚させ楽しませるか、そのセンスと方向性を考えさせた公演でもあった。
- ・「上方演芸特選会」は、落語、漫才、浪曲の3ジャンルとも、ぜいたくな出演者が揃い、非常にグレードの高い競演になったと思う。演者それぞれに芸の奥行きが感じられ、上方演芸を存分に楽しませてくれた。

4. アンケート調査

3月上方演芸特選会で実施(1回)

回答数 113人(配布数 162人、回収率 69.8%)。回答者の87.6%が概ね満足と答えた(99人)。

【特記事項】

- ・ 関西元氣文化圏共催事業(全公演)
- ・ 大阪文化祭参加(5月上方演芸特選会、5月浪曲錬声会)
- ・ 平成24年度(第67回)文化庁芸術祭協賛公演(11月上方演芸特選会)

2-(1)-⑤ 能楽

1. 公演実績

区分	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
定例公演	21 公演	実績	21回	21日	12,011人	(91.2%)	13,167人
		計画	21回	21日	12,453人	(94.6%)	13,167人
普及公演	11 公演	実績	11回	11日	6,762人	(98.0%)	6,897人
		計画	11回	11日	6,523人	(94.6%)	6,897人
企画公演	18 公演	実績	19回	19日	11,062人	(92.9%)	11,913人
		計画	19回	19日	11,267人	(94.6%)	11,913人
鑑賞教室	1 公演	実績	10回	5日	5,965人	(95.1%)	6,270人
		計画	10回	5日	5,900人	(94.1%)	6,270人
【能楽 合計】	51 公演	実績	61回	56日	35,800人	(93.6%)	38,247人
		計画	61回	56日	36,143人	(94.5%)	38,247人

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。

- ・ 月毎のポスター・チラシのほか、公演内容等に応じて適宜特別ポスター・特別チラシを作成・配布し、またホームページに公演内容等に応じて適宜トピックスを掲載して広報・宣伝に努めた。
- ・ 団体観劇への対応は、希望に応じてレクチャーを付けた。また適宜英文の特別チラシを作成し、都内の観光情報センター、ホテル、成田空港、大学の留学センター等に配布・設置して外国人利用者の集客を図った。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 復曲能「阿古屋松」は「世阿弥自筆本による能」シリーズの最終公演。現存する世阿弥自筆本のうちで唯一復曲されていない本曲の上演は特別企画の目玉となろう。シテの観世清和師はもちろん、監修の松岡心平氏や関係各位の努力によって、一定の完成度を持った舞台となり、その意味では成功と評価できる。
- ・ 能「高砂」は世阿弥時代を模索して老体での上演だったが、それほど違和感なく観られた。上演前に今回の公演に関わった天野氏と馬場氏の対談があったのはよい配慮。観客もそれを踏まえての鑑賞だったので、抵抗が少なく受け入れられたと思える。
- ・ 能「卒都婆小町」は「申楽談儀」によるとある新演出の趣向を除いても、たいへんな力演で見応えがあった。シテ・大槻文藏は芯の強い充実した演技で、問答の迫力など素晴らしかった。

4. アンケート調査

年間 51 公演のうち、9 公演にて 9 回実施した。

年間合計で回答数 2,539 人(配布数 4,700 人、回収率 54.0%)。回答者の 85.3%が概ね満足と答えた(2,165 人)。

【特記事項】

- ・ 平成 24 年度(第 67 回)文化庁芸術祭主催(11 月 21 日狂言の会)
- ・ 平成 24 年度(第 67 回)文化庁芸術祭協賛公演(10 月・11 月公演、8 公演)
- ・ 能楽堂では、座席字幕装置を活用して、10 月企画公演(蠟燭能)を除く 50 公演で、日本語(詞章)・英語の 2 チャンネル方式で字幕表示を実施した。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 35,800 人／目標 36,143 人(達成度 99.1%)

《能楽詳細表》

(1) 定例公演

1. 公演実績 ※目標入場者数:1 回当り 593 人(94.6%)、劇場:能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
狂言「土筆」、能「桜川」	4/11(水)	実績	1 回	1 日	617 人	(98.4%)	627 人
狂言「悪太郎」、能「蟻通」	4/20(金)	実績	1 回	1 日	501 人	(79.9%)	627 人

狂言「夷大黒」、能「海人懐中之舞・二段返」	5/9(水)	実績	1回	1日	530人	(84.5%)	627人
狂言「魚説経」、能「藤戸」	5/18(金)	実績	1回	1日	452人	(72.1%)	627人
狂言「膏薬煉」、能「夕顔山端之出」	6/6(水)	実績	1回	1日	565人	(90.1%)	627人
狂言「簸屑」、能「敦盛」	6/15(金)	実績	1回	1日	620人	(98.9%)	627人
狂言「金藤左衛門」、能「氷室白頭」	7/4(水)	実績	1回	1日	539人	(86.0%)	627人
狂言「秀句傘」、能「鶴」	7/18(水)	実績	1回	1日	615人	(98.1%)	627人
狂言「栗焼」、能「鬼界島」	9/5(水)	実績	1回	1日	617人	(98.4%)	627人
狂言「口真似」、能「羽衣盤渉」	9/21(金)	実績	1回	1日	585人	(93.3%)	627人
狂言「昆布柿」、能「淡路」	10/10(水)	実績	1回	1日	500人	(79.7%)	627人
狂言「雁大名」、能「花筐」	10/19(金)	実績	1回	1日	605人	(96.5%)	627人
狂言「蟹山伏」、能「遊行柳」	11/7(水)	実績	1回	1日	505人	(80.5%)	627人
狂言「梟」、能「玄象替之型」	11/16(金)	実績	1回	1日	611人	(97.4%)	627人
狂言「鐘の音」、能「恋重荷」	12/12(金)	実績	1回	1日	446人	(71.1%)	627人
狂言「鞆」、能「鉢木替装束」	12/21(金)	実績	1回	1日	618人	(98.6%)	627人
素謡「翁」、狂言「牛馬」、能「弓八幡」	1/5(土)	実績	1回	1日	622人	(99.2%)	627人
狂言「節分」、能「葛城」	1/18(金)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
狂言「腰折」、能「頼政」	2/20(水)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
狂言「竹生鳴詣」、能「雷電」	3/6(水)	実績	1回	1日	602人	(96.0%)	627人
狂言「腹不立」、能「善知鳥」	3/15(金)	実績	1回	1日	619人	(98.7%)	627人
【定例公演 小 計】 21 公演 (計画: 21 公演)		実績	21回	21日	12,011人	(91.2%)	13,167人
		計画	21回	21日	12,453人	(94.6%)	13,167人

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 毎月のポスター・チラシのほか、公演内容等に応じて適宜特別ポスター・特別チラシを作成・配布し、またホームページに公演内容等に応じて適宜トピックスを掲載して広報・宣伝に努めた。
- ・ 団体観劇への対応は、希望に応じてレクチャーを付けた。また適宜英文の特別チラシを作成し、都内の観光情報センター、ホテル、成田空港、大学の留学センター等に配布・設置して外国人利用者の集客を図った。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 「藤戸」シテの観世恭秀は全体としてかなり突っ込んだ演技で、それが十分に生かされた。前場の盛綱への恨み言などに迫真感があった。後場でも緊張感がよく伝わった。ワキの宝生欣哉も好演。強くきっぱりとした言葉、ことに「とって引きよせ二刀刺し」の一句を息つぎなしに一気に語るのが見事であった。
- ・ 「蟹山伏」シテの小笠原匡の味が生きた舞台。「生き不動」とまで言い放つ自信過剰な山伏を生き生きと演じて小気味がよい。
- ・ 「遊行柳」シテの豊嶋三千春は朽ち始めた柳の古木を思わせる風情。声に力があるので、謡もだが語りが聴かせる。前場の宝生閑とのやりとりは聞き応え充分であった。腰がすわって安定感があり、後場の舞も安心して見ていられる。金剛流にはこの人が居るのだな、という存在感を見せた舞台であった。
- ・ 「玄象」シテの梅若玄祥、ツレの観世清和、ワキの宝生閑、アイの山本東次郎と達者な役者が揃った贅沢な配役である。後ツレに観世三郎太も出て、行儀のいいツレを演じた。後シテのゆったりと舞った早舞が見ものであった。
- ・ 「牛馬」近時よく見られる大藏吉次郎と善竹十郎の組み合わせは珍しくないが、アドの目代役に山本東次郎が加わったことで、好ましいトリオが生まれ、ほのぼのと味のある舞台となった。他愛ないテーマながら、白垂と黒垂とをうまく使って牛馬を表し、狂言らしい気のきいたアイデアは、初めて狂言を見た人にも興味ぶかい作品になったと思う。

4. アンケート調査

年間 21 公演のうち、1 公演にて 1 回実施した。(11 月 16 日)

回答数 281 人(配布数 585 人、回収率 48.0%)。回答者の 88.3%が概ね満足と答えた(248 人)。

【特記事項】

- ・ 平成 24 年度(第 67 回)文化庁芸術祭協賛公演(10 月・11 月公演)
- ・ 能楽堂では、座席字幕装置を活用して、全公演で、日本語(詞章)・英語の 2 チャンネル方式で字幕表示を実施した。

(2) 普及公演

1. 公演実績 ※目標入場者数:1 回当たり 593 人(94.6%)、劇場:能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
-----	----	----	----	----	------	-----	-----

解説・能楽あんない「花の山の力神」 狂言「文山立」、能「嵐山」	4/14(土)	実績	1回	1日	617人	(98.4%)	627人
解説・能楽あんない「貴種流離譚の系譜」 狂言「謀生種」、能「須磨源氏」	5/12(土)	実績	1回	1日	618人	(98.6%)	627人
解説・能楽あんない「鍾馗について—伝説と風習—」 狂言「千切木」、能「鍾馗」	6/9(土)	実績	1回	1日	613人	(97.8%)	627人
解説・能楽あんない「兼平と義仲、そして巴」 狂言「重喜」、能「兼平」	7/14(土)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
解説・能楽あんない「龍田の神々」 狂言「包丁髻」、能「龍田」	9/8(土)	実績	1回	1日	620人	(98.9%)	627人
解説・能楽あんない「能「大社」と古事記神話」 能「大社」間狂言「神子神楽」	10/13(土)	実績	1回	1日	618人	(98.6%)	627人
解説・能楽あんない「白い矢と朱の矢-賀茂社の縁起と能」 狂言「佐渡狐」、能「賀茂」	11/10(土)	実績	1回	1日	569人	(90.7%)	627人
解説・能楽あんない「『平家物語』から能へ」 狂言「狐塚」、能「清経」	12/1(土)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
解説・能楽あんない「一角仙人、あまりに人間的な！」 狂言「文相撲」、能「一角仙人」	1/12(土)	実績	1回	1日	620人	(98.9%)	627人
解説・能楽あんない「菊いろいろ—仙童の舞」 狂言「財宝」、能「菊慈童遊舞之楽」	2/23(土)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
解説・能楽あんない「弁才天は女体にて」 狂言「薩摩守」、能「竹生島」	3/9(土)	実績	1回	1日	622人	(99.2%)	627人
【普及公演 小 計】 11 公演(計画:11 公演)	実績	11回	11日	6,762人	(98.0%)	6,897人	
	計画	11回	11日	6,523人	(94.6%)	6,897人	

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 月毎のポスター・チラシのほか、公演内容等に応じて適宜特別ポスター・特別チラシを作成・配布し、またホームページに公演内容等に応じて適宜トピックスを掲載して広報・宣伝に努めた。
- ・ 団体観劇への対応は、希望に応じてレクチャーを付けた。また適宜英文の特別チラシを作成し、都内の観光情報センター、ホテル、成田空港、大学の留学センター等に配布・設置して外国人利用者の集客を図った。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 「嵐山」四月半ばなのに外は冷たい雨模様、しかし能楽堂の中は春爛漫という気持ちのよい舞台であった。ワキ登場の真ノ次第はテンポよく、颯爽とした滑り出で、続く真ノ一声のシテとツレの出は一転して厳かな雰囲気漂う。シテ・ツレとも姿よし声よしで、連吟もなかなか聞き応えがある。ワキとシテの対応では舞台に花が咲いたかのようであった。後場は後ツレ二人の装束が華やかで、相舞も舞台の作り物に映える。まさに舞台の上は花盛りといった観であった。
- ・ 「千切木」は中世の市井における連歌の場を彷彿とさせる佳作で、人数が必要なのであまり機会に

恵まれないが、もっと上演してもらいたい作品である。山本東次郎のシテが秀逸。人間の喜怒哀楽を演じさせたら今一番ではなかろうか。ないがしろにされてつっぱねている前半と、へたれて虚勢をはっている後半の演じ分けが見事である。

- ・「大社」はじめて観た演目で、『古事記』1300年記念の公演でなければ接する機会がなかったかもしれない。実に堂々たる舞台であった。シテの観世鏡之丞は前場の神人は端正に、後場は威厳のある素戔鳴の神を堂々と演じた。観世長俊の作は物語性があるわけではなく、かといってあまり芸術性が高いものではないが、出演者一丸となって中世神話の世界を現出した舞台と評価できよう。
- ・「文相撲」シテに野村万蔵、アドに三宅近成、小アドに野村又三郎と別の家の若手を起用することには大変に好ましいと思う。少しずつ芸質の異なる人を組み合わせることで舞台が新鮮になる。しかもシテを含めて三者の特色を生かしたヒット作である。
- ・「財宝」茂山千五郎が達者な老人を演じる。3人の孫が珍妙な名をつけてもらって喜ぶという、現実離れした話をしごくまじめにしかも賑やかに演じる。その雰囲気は茂山家独特のものである。東西の狂言でどことなく違うものを鑑賞するいい機会になった。

4. アンケート調査

年間 11 公演のうち、1 公演にて 1 回実施した。(1 月 12 日)

回答数 316 人(配布数 593 人、回収率 53.3%)。回答者の 81.6%が概ね満足と答えた(258 人)。

【特記事項】

- ・平成 24 年度(第 67 回)文化庁芸術祭協賛公演(10 月・11 月公演)
- ・能楽堂では、座席字幕装置を活用して、全公演で、日本語(詞章)・英語の 2 チャンネル方式で字幕表示を実施した。

(3) 企画公演

1. 公演実績 ※目標入場者数:1 回当り 593 人(94.6%)、劇場:能楽堂

	公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
特別 企画	世阿弥自筆本による能-観世文庫創立 20 周年記念解説・復曲能「阿古屋松」	4/27(金) ・29(日)	実績	2 回	2 日	1,223 人	(97.5%)	1,254 人
企画 公演	能を再発見する I —老体で見る高砂— 能「高砂」	5/24(木)	実績	1 回	1 日	601 人	(95.9%)	627 人
企画 公演	素の魅力-源氏物語をめぐって- 仕舞「夢浮橋」、舞囃子「野宮」、間語り「源氏供養」・仕舞「浮舟」、仕舞「玉葛」、舞囃子「葵上」	6/2(土)	実績	1 回	1 日	494 人	(78.8%)	627 人
企画 公演	復曲・再演の夕べ おはなし、復曲能「常陸帯」	7/26(木)	実績	1 回	1 日	612 人	(97.6%)	627 人
企画 公演	夏休み親子で楽しむ能の会 おはなし、能「土蜘蛛」	8/4(土)	実績	1 回	1 日	616 人	(98.2%)	627 人

企画公演	夏休み親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「六地藏」、狂言「菌」	8/11(土)	実績	1回	1日	615人	(98.1%)	627人
企画公演	働く貴方に贈る 対談、能「鶺鴒空之働」	8/24(金)	実績	1回	1日	615人	(98.1%)	627人
企画公演	狂言と落語・講談 講談「梅若丸」、落語「子別れ」、狂言「六人僧」	8/30(木)	実績	1回	1日	620人	(98.9%)	627人
特別公演	方丈記八百年記念 能「養老」、狂言「柑子」、能「船弁 慶重前後之替」	9/29(土)	実績	1回	1日	617人	(98.4%)	627人
企画公演	蠟燭の灯りによる 狂言「因幡堂」、能「三輪」	10/25(木)	実績	1回	1日	539人	(86.0%)	627人
企画公演	古典の日記念 近江八景を訪ねて 小舞「海道下り」、平家琵琶「竹生島 詣」「木曾最期」、能「三井寺」	11/1(木)	実績	1回	1日	610人	(97.3%)	627人
狂言の会	特集・大藏虎明没後三百五十年記念 復曲狂言「眉目吉」、復曲狂言「東西 迷」、狂言「金津」	11/21(水)	実績	1回	1日	478人	(76.2%)	627人
企画公演	天狗-その知られざる世界- 狂言「井杭」、能「大会」	12/7(金)	実績	1回	1日	457人	(72.9%)	627人
企画公演	天狗-その知られざる世界- 狂言「鞍馬参」、復曲能「松山天狗」	12/8(土)	実績	1回	1日	505人	(80.5%)	627人
特別公演	能「胡蝶」、狂言「鬼瓦」、能「望月」	1/26(土)	実績	1回	1日	619人	(98.7%)	627人
狂言の会	狂言の会 狂言「目近」、「伯母ヶ酒」、「唐人子 宝」	1/30(水)	実績	1回	1日	614人	(97.9%)	627人
企画公演	能を再発見するII-憑依する少将- 解説、「鼎談」、能「卒都婆小町」	2/28(木)	実績	1回	1日	613人	(97.8%)	627人
特別公演	仕舞「蟬丸」、狂言「花盗人」・能「草 子洗小町替装束」	3/20 (水・祝)	実績	1回	1日	614人	(97.9%)	627人
【企画公演 小計】 18 公演 (計画 : 18 公演)			実績	19回	19日	11,062人	(92.9%)	11,913人
			計画	19回	19日	11,267人	(94.6%)	11,913人

(能楽鑑賞教室)

	公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
鑑賞教室	6月能楽鑑賞教室 解説「能楽のた	6/18(月)	実績	10回	5日	5,965人	(95.1%)	6,270人

のしみ」狂言「柿山伏」・能「葵上」	～22(金)	計画	10回	5日	5,900人	(94.1%)	6,270人
-------------------	--------	----	-----	----	--------	---------	--------

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 月毎のポスター・チラシのほか、公演内容等に応じて適宜特別ポスター・特別チラシを作成・配布し、またホームページに公演内容等に応じて適宜トピックスを掲載して広報・宣伝に努めた。
- ・ 団体観劇への対応は、希望に応じてレクチャーを付けた。また適宜英文の特別チラシを作成し、都内の観光情報センター、ホテル、成田空港、大学の留学センター等に配布・設置して外国人利用者の集客を図った。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 復曲能「阿古屋松」は「世阿弥自筆本による能」シリーズの最終公演。現存する世阿弥自筆本のうちで唯一復曲されていない本曲の上演は目玉となろう。シテの観世清和師はもちろん、監修の松岡心平氏や関係各位の努力によって、一定の完成度を持った舞台となり、その意味では成功と評価できる。
- ・ 能「高砂」は世阿弥時代を模索して老体での上演だったが、それほど違和感なく観られた。上演前に今回の公演に関わった天野氏と馬場氏の対談があったのはよい配慮。観客もそれを踏まえての鑑賞だったので、抵抗が少なく受け入れられたと思える。
- ・ 復曲能「常陸帯」は後半の女ツレと男ツレの対応が始まってから、一気に舞台は緊張を帯びて引き付けられる。女ツレのカケリは効果的。ここからシテの明神が登場して、大団円となる終曲までのテンポはよかった。
- ・ 能「卒都婆小町」は「申楽談儀」によるとある新演出の趣向を除いても、たいへんな力演で見応えがあった。シテ・大槻文藏は芯の強い充実した演技で、問答の迫力など素晴らしかった。

4. アンケート調査

年間 19 公演のうち、7 公演にて 7 回実施した。(5 月 24 日、6 月 2 日、8 月 4 日、8 月 11 日、8 月 24 日、9 月 29 日、2 月 28 日)

回答数 1,942 人(配布数 3,522 人、回収率 55.1%)。回答者の 85.4%が概ね満足と答えた(1,659 人)。

【特記事項】

- ・ 平成 24 年度(第 67 回) 文化庁芸術祭主催公演(11 月狂言の会)
- ・ 平成 24 年度(第 67 回) 文化庁芸術祭協賛公演(10 月・11 月公演)
- ・ 能楽堂では、座席字幕装置を活用して、10 月企画公演(蠟燭能)を除く全公演で、日本語(詞章)・英語の 2 チャンネル方式で字幕表示を実施した。

2-(1)-⑥ 組踊等沖縄伝統芸能

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
-----	----	----	----	----	----	------	-----	-----

4月定期公演 琉球舞踊公演 「新進舞踊家の会」	4/28(土)	実績	1回	1日	343人	(60.3%)	569人				
		計画	1回	1日	316人	(50.7%)	623人				
6月定期公演 沖縄芝居公演 琉球歌劇「伊江島ハンドー小」	6/9(土)～ 10(日)	実績	2回	2日	1,115人	(89.5%)	1,246人				
		計画	2回	2日	727人	(58.1%)	1,251人				
6月定期公演 琉球舞踊公演 「男性舞踊家の会」	6/30(土)	実績	1回	1日	563人	(90.4%)	623人				
		計画	1回	1日	348人	(55.9%)	623人				
7月定期公演 組踊公演 「北山崩」	7/14(土)	実績	1回	1日	467人	(82.1%)	569人				
		計画	1回	1日	376人	(66.5%)	565人				
8月定期公演 組踊公演 「姉妹敵討」※1	8/25(土)～ 26(日)	実績	1回	1日	334人	(58.7%)	569人				
		計画	2回	2日	694人	(60.7%)	1,143人				
9月定期公演 組踊公演 「奇縁之巻」	9/8(土)	実績	1回	1日	146人	(25.7%)	569人				
		計画	1回	1日	376人	(66.5%)	565人				
9月定期公演 琉球舞踊公演 重要無形文化財保持者公演「琉球舞踊特選会」	9/22(土)	実績	1回	1日	542人	(87.0%)	623人				
		計画	1回	1日	411人	(66.0%)	623人				
9月定期公演 組踊公演 「二童敵討」※2	9/29(土)	実績	—	—	—	—	—				
		計画	1回	1日	376人	(66.5%)	565人				
10月定期公演 民俗芸能公演 重要無形民俗文化財「多良間の豊年祭 八月踊りの芸能」	10/14(日)	実績	1回	1日	548人	(88.0%)	623人				
		計画	1回	1日	474人	(76.6%)	619人				
10月定期公演 組踊公演 「巡見官」	10/20(土)	実績	1回	1日	196人	(34.4%)	569人				
		計画	1回	1日	376人	(66.5%)	565人				
12月定期公演 沖縄芝居公演 琉球史劇「虎！北へ走る」	12/22(土)～ 23(日)	実績	2回	2日	591人	(52.2%)	1,132人				
		計画	2回	2日	727人	(58.1%)	1,251人				
1月定期公演 組踊公演 「孝行竹壽之巻」	1/6(日)	実績	1回	1日	272人	(47.8%)	569人				
		計画	1回	1日	376人	(66.5%)	565人				
1月定期公演 琉球舞踊公演 「新春琉舞名人選～嘉例吉の舞～」	1/19(土)～ 20(日)	実績	2回	2日	716人	(57.5%)	1,246人				
		計画	2回	2日	822人	(65.5%)	1,255人				
2月定期公演 組踊公演 「矢蔵之比屋」	2/9(土)	実績	1回	1日	364人	(64.0%)	569人				
		計画	1回	1日	376人	(66.5%)	565人				
2月定期公演 民俗芸能公演 「沖縄本島民俗芸能祭(宜野座村)」	2/24(日)	実績	1回	1日	555人	(89.7%)	619人				
		計画	1回	1日	474人	(76.1%)	623人				
3月定期公演 琉球舞踊公演	3/24(日)	実績	1回	1日	280人	(44.9%)	623人				

国立劇場
おきなわ
大劇場

	「花形女性舞踊家の会」			計画	1回	1日	316人	(50.7%)	623人
	5月定期公演 琉球舞踊公演 琉舞鑑賞会「うりずんの舞」	国立劇場 おきなわ 小劇場	5/26(土)	実績	1回	1日	225人	(90.4%)	249人
				計画	1回	1日	153人	(61.4%)	249人
	7月定期公演 三線音楽公演 琉球弧の島唄	国立劇場 おきなわ 小劇場	7/28(土)	実績	1回	1日	195人	(78.3%)	249人
				計画	1回	1日	140人	(56.2%)	249人
	10月定期公演 琉球舞踊公演 琉舞鑑賞会「豊穡の舞」	国立劇場 おきなわ 小劇場	10/6(土)	実績	1回	1日	197人	(79.1%)	249人
				計画	1回	1日	153人	(61.4%)	249人
	1月定期公演 琉球舞踊公演 琉舞鑑賞会「初春の舞」	国立劇場 おきなわ 小劇場	1/26(土)	実績	1回	1日	169人	(67.9%)	249人
				計画	1回	1日	166人	(66.7%)	249人
	【定期公演 小計】 19公演(計画20公演)			実績	22回	22日	7,818人	(66.7%)	11,714人
				計画	24回	24日	8,177人	(62.8%)	13,020人
	4月企画公演 新作組踊 「十六夜朝顔」	国立劇場 おきなわ 大劇場	4/14(土)～ 15(日)	実績	2回	2日	644人	(51.8%)	1,243人
				計画	2回	2日	664人	(53.1%)	1,251人
	11月企画公演 国立劇場寄席	国立劇場 おきなわ 大劇場	11/10(土)	実績	1回	1日	588人	(94.4%)	623人
				計画	1回	1日	506人	(81.2%)	623人
	11月企画公演 アジア・太平洋 地域の芸能	国立劇場 おきなわ 大劇場	11/25(日)	実績	1回	1日	285人	(45.9%)	621人
				計画	1回	1日	316人	(51.1%)	619人
	12月企画公演 創作舞踊	国立劇場 おきなわ 大劇場	12/8(土)	実績	1回	1日	384人	(61.6%)	623人
				計画	1回	1日	316人	(50.7%)	623人
	2月企画公演 「新春ゆらていく遊ば」	国立劇場 おきなわ 大劇場	2/16(土)	実績	1回	1日	244人	(39.4%)	619人
				計画	1回	1日	316人	(51.1%)	619人
	3月企画公演 新作組踊 「聞得大君誕生」	国立劇場 おきなわ 大劇場	3/15(金)～ 17(日)	実績	3回	3日	1,744人	(92.7%)	1,881人
				計画	3回	3日	1,137人	(60.4%)	1,883人
	【企画公演 小計】 6公演(計画6公演)			実績	9回	9日	3,889人	(69.3%)	5,610人
				計画	9回	9日	3,255人	(57.9%)	5,618人
	研究公演 「御冠船踊の世界Ⅱ 組踊『孝行之巻』」	国立劇場 おきなわ 大劇場	5/12(土)	実績	1回	1日	378人	(66.4%)	569人
				計画	1回	1日	405人	(71.7%)	565人
	【研究公演 小計】 1公演(計画1公演)			実績	1回	1日	378人	(66.4%)	569人
				計画	1回	1日	405人	(71.7%)	565人
	「社会人のための組踊鑑賞教室 『執心鐘入』」	国立劇場 おきなわ 大劇場	6/24(日)	実績	1回	1日	549人	(95.0%)	578人
				計画	1回	1日	376人	(66.5%)	565人
	「親子のための組踊鑑賞教室」	国立劇場 おきなわ 大劇場	8/11(土)	実績	1回	1日	468人	(82.8%)	565人
				計画	1回	1日	405人	(70.1%)	578人

「生徒のための組踊鑑賞教室」	10/25(木)～ 26(金) 11/15(木)～16 (金)	実績	8回	4日	3,516人	(76.3%)	4,611人
		計画	8回	4日	3,236人	(70.0%)	4,624人
【普及公演 小 計】 3公演(計画3公演)		実績	10回	6日	4,533人	(78.8%)	5,754人
		計画	10回	6日	4,017人	(69.7%)	5,767人
【組踊等沖縄伝統芸能 合 計】 29公演(計画30公演)		実績	42回	38日	16,618人	(70.3%)	23,647人
		計画	44回	40日	15,854人	(63.5%)	24,970人

※1) 国立劇場おきなわの8月定期公演「組踊 姉妹敵討」は、台風15号接近のため、当初計画2回のうち8月26日(日)の公演を中止した。

※2) 国立劇場おきなわ9月定期公演「組踊 二童敵討」は、台風17号接近のため、公演を中止した。

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社、県内情報雑誌への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、国立劇場おきなわ友の会会報誌等により公演の周知を図った。
- ・ 毎月、県内約700カ所(県、市町村、教育機関、主要企業等)に各公演のチラシを配布するとともに、近隣市町村自治会長会でのチラシの配布及び地域住民への周知依頼等を行うなど、公演の周知に努めた。
- ・ 高齢者が主要な観客層であることから、県内各市町村文化協会や社会福祉協議会を定期的に訪問し、公演の周知や団体客の誘客に努めた。
- ・ 各公演演目のゆかりの地の公民館や関係団体等への訪問を強化し誘客に努めた。
- ・ 県内6カ所の観光施設に本劇場の専用ラックを設置し、劇場及び公演の周知を図った。
- ・ 1月及び2月公演において、県の助成事業を活用して、無料巡回バス及び無料団体配車サービスを行い、一般及び団体客の誘客に努めた。
- ・ 沖縄県庁1階県民ホールにて、8月27日～31日にポスター展を実施した。
- ・ 商業施設(パレットくもじ)1階エントランスホールにて、12月27日～1月7日にポスター展を実施した。
- ・ 1月定期公演組踊「孝行竹壽之巻」及び1月定期公演琉球舞踊「新春琉舞名人選」の新春公演では、公演3日間計350名に呈茶を実施し、幕間に抽選による観客へのお年玉プレゼント(カレンダー、劇場グッズなどの詰め合わせ)を行い、初春公演の雰囲気盛り上げた。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 6月定期公演「琉球歌劇伊江島ハンドー小」では、芝居の幕間に踊る役者の舞踊は、琉球舞踊とは趣の異なる振りの大らかさや表情など、独特の身のこなしがある。今回は琉球舞踊家による役者舞踊であったが、琉球舞踊の雑踊りの趣であった。琉球舞踊家の若さ、真摯に踊りに取り組む姿が踊りに出ていたが、そのために、十分に役者舞踊の雰囲気が出なかったように見受けられた。今回は全員が30代前後の若手ということで強い関心をもって鑑賞した。演技・歌・地謡とも一生懸命に演じている様子が伝わってきた。全体的にまとまりがあったが、ドラマの展開においてやや盛り上がり欠けていた。ベテランと中堅、若手の組み合わせの配役で、また見てみたい。
- ・ 8月定期公演組踊「姉妹敵討」では、劇場に入場すると、見事な御冠船舞台がライトアップされてお

り、開演前に気持ちの高揚があった。解説がわかりやすい言葉でなされており、あらすじやこれまでの上演状況、他の仇討ちとの違い、本土からの影響等、鑑賞の手助けになった。

- ・ 12 月企画公演「虎！北へ走る」では、舞台転換もスピード感ありでとても楽しめました。役柄もよくあっていましたし、その中でも普久原さんと高宮城さんはさすがだと思います。戦場の中でのチャンバラでは少々長すぎたかな？と思わないでもないです。巴志が迫力に欠けた感がありました。脚本が金城哲夫さんだけあって、さすが正義感あふれる役所が随所に見える作品でした。
- ・ 12 月定期公演企画公演「創作舞踊」では、今回の作品が選ばれた理由等を述べられていましたが、果たしてそうなのかと疑問を感じます。古典に対して創作(オリジナル)ではないかと考えます。曲・詞・コスチューム・もちろん振付も含めて創作であってほしいものです。古典の様式にこだわるなら創作ではないはず。審査員の方々が求めるものと、根っから私の考えが異なるようです。「来訪神童神」は、民俗芸能を取り入れて構成した楽しい作品でした。パートウの3人に練習不足が大いに見られました。又、アンマーと子供たちの絡みを舞踊で表現してほしかったですね。エピローグを考えたらもっと良くなる作品だと思います。「春華」は、現存在の若衆の出で立ちで、小道具を取り替えての舞踊で、美男子ならではの歴とした振付舞踊でした。さわやかで上品で良かったと思います。「てだ心」は、見ていて理解するのに難しいですし、曲が曲だけに少々眠気を誘う作品でした(周りの反応)。鎮魂の感じはよく表現できていたと思います。

4. アンケート調査

年間 29 公演のうち、28 公演にて 29 回実施した。

年間合計で回答数 4,605 人(配布数 7,258 人、回収率 63.4%)。回答者の 78.7%が概ね満足と答えた(3,623 人)。

【特記事項】

- ・ 国立劇場おきなわにおいて、全公演に字幕にて歌詞を表示し、鑑賞の助けとした(「国立劇場寄席」及び小劇場で行われた「琉球弧の島唄」公演を除く)。
- ・ 平成 24 年度文化庁芸術祭主催公演として、11 月企画公演でアジア・太平洋地域の芸能「インド伝統芸能」を上演した。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 16,618 人／目標 15,854 人(達成度 104.8%)

2-1(1)-⑦ 演目の拡充

1. 復活上演候補演目の上演候補台本準備稿の作成作業

- ・ 候補演目「塩原多助一代記」の準備稿を作成し、24 年 10 月歌舞伎公演で上演した。
- ・ 25 年 3 月 19 日に開催した復活上演候補作品調査検討会において、候補演目「春陽三獅頭」の準備稿につき、委員とともに検討を重ねた。また、各委員から、準備稿の進捗状況の報告と新規の候補作品に関する情報の提供を受けた。
- ・ 候補演目のうち、「春陽三獅頭」と昨年度に内容を検討した「有職鎌倉山」につき、復活上演用準備台本を作成した。

2. 歌舞伎の新作脚本募集

- ・ 23年度に受け付けた応募作品 213 篇を対象に、予備選考を経て、9月13日に選考会を実施し、佳作 2 篇と清栄会奨励賞 1 篇が決定した。
佳作「上瑠璃」絵巻物語—岩佐又兵衛越前記—森真実、佳作「這上成功名怪我」山崎赤絵、清栄会奨励賞「花里亡者純真夢」吉井三奈子

3. 文楽における復曲等の上演準備作業

- ・ 国立劇場文楽演目復曲事業の一環として、明治 12 年を最後に上演が途絶えている『釜淵双級巴』の「五右衛門内の段」「藤の森の段」「七条河原釜煎りの段」を三味線の朱(三味線の楽譜)をもとに復曲し、浄瑠璃演奏の録音作業をかねてあぜくら会員を対象とする復曲試演会を実施した。(3月18日、伝統芸能情報館レクチャー室、参加者 132 名(出演者関係者招待を含む。応募者 374 名、当選者 150 名)
- ・ 文楽劇場夏休み文楽公演において、以前外部で幼児向けに上演された「鈴の音」を、演出を改訂して再演した。
- ・ 文楽劇場で研究公演「稀曲を聴く」を開催し、『大塔宮囃鏡』『身替音頭の段』(素浄瑠璃)を上演した。(8月30日、文楽劇場小ホール、無料、参加者 149 名)

4. 大衆芸能の新作脚本募集

24年度は「漫才・コント」部門の脚本を8月1日より募集開始し、8月31日に締め切った(応募総数 249 篇)。1月30日に選考会を開催し、優秀作 1 篇・佳作 2 篇、財団法人清栄会による奨励賞 1 篇が決定した。

- 優秀作「内緒のアルバイト」(コント)横井正幸
- 佳作「こんな子どもに育てて欲しい」(漫才)玉井一郎
- 佳作「思ひ出ぼろぼろ」(コント)蓮見国彦
- 清栄会奨励賞「301号室の幽霊」(コント)廣瀬大

5. 能楽における復曲および演出の見直しによる上演

- ・ 4月特別企画公演 復曲能「阿古屋松」(復曲初演)
- ・ 5月企画公演 「高砂」(能を再発見する—老体で見る高砂—)
- ・ 7月企画公演 復曲能「常陸帯」(平成 23 年復曲)
- ・ 11月狂言の会 復曲狂言「眉目吉」(昭和 47 年定本復曲)
- ・ 11月狂言の会 復曲狂言「東西迷」(平成 18 年復曲)
- ・ 2月企画公演 「卒都婆小町」(能を再発見する—憑依する少将—)

6. 組踊等沖縄伝統芸能における新作組踊の上演

- ・ 4月企画公演 新作組踊「十六夜朝顔」
- ・ 3月特別企画公演 新作組踊「聞得大君誕生」